

令和 5 年度学校評価
公立春日井小牧看護専門学校

令和 6 年 3 月 31 日

学校評価委員会

目次

I	教育理念及び教育目的・目標	1
II	教育課程経営	5
III	教授、学習及び評価課程	10
IV	卒業・就業・進学の様況	20
V	経営及び管理課程並びに財政	23
VI	入学者の選抜及びその考え方	28
VII	地域との連携および交流	30

I 教育理念及び教育目的・目標

学校評価の総括

令和5年度は以下に挙げる3つの学校方針と項目の目標を掲げた。

- 1 地域に貢献できる質の高い看護師の育成を目指す
 - 1) 入試方法の見直しやオープンキャンパスの充実を図り、市内外から優秀な学生の獲得
 - 2) 合理的配慮を行い、学生個々の特性に応じた学習支援
 - 3) 臨床判断能力を育み国家試験全員合格
- 2 働きやすい職場づくりを目指す
 - 1) ワークライフバランス推進計画の周知
 - 2) 年次有給休暇12日以上/年取得と残業時間の削減
- 3 ハラスメントに対する認識を高める

それぞれの学校方針・目標達成に向けて活動したことについて総括する。

- 1 地域に貢献できる質の高い看護師の育成を目指す
 - 1) 入試方法の見直しやオープンキャンパスの充実を図り、市内外から優秀な学生の獲得
日本の人口構造の変化として、2025年度以降「高齢者の急増」から「現役世代の急減」に局面が変化すると予測されている。本校の一般入試においても、受験者数は令和4年度165名、令和5年度144名、令和6年度112名と年々減少している。

受験者数の獲得のため、今年度はオープンキャンパスを例年開催する9月に加え7月にも開催し、7月の開催は午前・午後の2回行った。どの回も希望者が多く参加できなかった方もいたが、参加者からの意見は概ね好評で本校への入学をオープンキャンパスによって受験した人もいた。オープンキャンパスでは、教員の対応だけでなく学生がブース毎に担当し、看護技術や校内案内をし入学後の姿が具体的にイメージしやすかったことも参加者からの高評価を頂いた要因と考える。また、昨年までは随時行っていた学校見学会も定期的に開催した。オープンキャンパスに参加できなかった方や、参加できた方も再度見学を希望されることもあった。社会人に対応できるように時間を夕方に設定する事もあり毎回多くの参加者があった。約1時間の中で校内見学と説明、個別対応・相談を行った。

業者が主催する進学相談会や、各高校が行う進学説明会には積極的に参加している。模擬授業を行う説明会においては、担当している教科について高校生にわかりやすくアレンジし、看護に興味関心が持てるように工夫している。

今年度の一般入学試験では、受験者数が減少している中でもより良い学生確保を目指すために面接を重視し、学科試験だけではなく、入学生の特徴を鑑み新入生の選考を行うことができた。

今後も、受験者数の増加は望めないと考えている。まずは、本校に興味を持ってもらうために、ホームページの充実や、進学説明会への参加、オープンキャンパス、学校見学会などを充実し学生を獲得していきたい。また、今年度地域が開催する地域ボランティアに学生が主体となって参加し、多くの地域住民に本校をアピールし看護に興味を持

ってもらふことができた。機会があれば、今後も引き続きこのような活動を行っていききたい。

2) 合理的配慮を行い、学生個々の特性に応じた学習支援

先にも述べたように、人口構造の変化により、18歳人口の減少が進んでいる。このため、各学校による学生の争奪戦が行われており、本校に入学する学生の中には今までの学生と比較し基礎学力の低下や受験時の態度、面接時のマナーなど対人関係能力が乏しい者もいることは否めない。このような学生に対しては、その学生の持つ特性に応じた学習支援は必須となる。

また、障害者差別解消法により2024年4月より「合理的配慮」が義務化されることに伴い、本校も合理的配慮が必要となる。このような状況から、今年度の入学生に対しては、入学後の面接時の事前調査書に「合理的配慮」の文言を入れ配布し、学生の背景を把握し指導に活かした。また、合理的配慮について、教職員の認知度に差があるため、外部講師に依頼し全員参加の学習会を開催し理解を深めた。合理的配慮に対する規定や要項、申請書についても検討・作成をし、次年度に活用できるような環境を整えた。

本校では、今までも学生の個別性や特性を考え、教員間で情報共有や相談しながら指導を行っている。今後も引き続き、学生の特性に応じ、強みを見出すような支援を行っていききたい。

3) 臨床判断能力を育み国家試験全員合格

今年度の3年生は入学時にコロナ禍ではあったものの、1年次より対面授業を行うことができた。看護技術においてもフェイスシールドの装着等制限はあるものの実施することができた。ただ、まだ2類であったため、ワクチン接種を行い副反応や感染のため欠席する学生もいるなど日常が戻ったとは言い難かった。実習については感染リスクを伴う援助は実践できないことがあったが、大きな制限はなく行うことができた。3年次は日常が戻り、授業・実習ともほぼ通常となった。学習に対しての大きな障害はなく学業を習得できた。旧カリキュラム最後の学生であり、新カリキュラムのように大々的な臨床判断能力の育成を謳ってはいないが、学生が疑問を持ち主体的に学習し判断能力や実践能力を培うという方針のもと学生支援を行った。

本校の国家試験対策は国家試験対策係が中心となり学習計画を立案し、1年次より模擬試験を行い、3年時には成績低迷者に対してチューター制で学習支援をしている。夏季休業後に成績低迷者を見直し、担当学生を変更した。全ての実習が終了した1月には成績低迷者を対象とした国家試験前の補習講義を行っている。冬季休業中や授業がない平日に図書室など学校の施設を開放した。登校する学生に対しては、声掛けを行うなど励まししながらモチベーションの向上を図った。このような取り組みにより、最終目標である全員合格を達成できた。18歳人口の減少とともに、個別の学生支援を必要とする学生が増加傾向にある。学生の状況に応じて柔軟に一人一人に合わせた学習支援を引き続き行っていききたい。

2 働きやすい職場づくりを目指す

1) ワークライフバランス推進計画の周知

「春日井小牧看護専門学校管理組合職員ワーク・ライフ・バランス推進計画」を令和4年度に策定し、教職員に周知を図った。

計画策定後、2年目で数値目標（表 I-1 参照）を達成することが出来たのは、教職員一人一人が業務の効率化を進めた結果、時間外勤務時間の減少や休暇取得の増加につながったと考えられる。

今後も計画的に業務を進め、数値目標を維持するとともに、働きやすい職場環境を推進できるように努めたい。

表 I-1 数値目標

施策の柱	指標	実績及び数値目標			
		R3	R5	目標値 (R7)	ありたい 姿
働き方の見直しに向けた取組	①職員 1 人当たりの年間時間外勤務時間数	24:00	12:00	23:00	20:00
	②職員 1 人当たりの年次有給休暇取得日数数	8.6 日	13.0 日	12 日	14 日
仕事と家庭生活との両立のための取組	③育児休業取得率	0% (対象者無)	0% (対象者無)	100%	100%

事務局では、計画的に年次有給休暇を取得できており、心身のリフレッシュなどが行われていると考えられる。しかし、時間外勤務時間については、入試事務、議会事務などの時期に多いことから、今後は会議や行事の資料作成や準備などは内容に応じて事前の業務推進や DX 化を検討し、時間外削減に努めたい。

教務課では、ワークライフバランスを推進するため、夏季休業中と 1 月～3 月に最大 2 日間ずつ計画的に在宅勤務の取得を取り入れた。講義構築や集中したい業務を在宅若しくは出勤時も個室に入り集中できる環境を確保した。アンケート結果から「普段は雑務に追われ計画的にできなかった業務も集中してできた」「通勤時間から解放された」などの意見があり、おおむね好評であった。次年度以降も続けていきたい。但し、1 月～3 月の期間は実習や講義があり取得する教員が少なかった。時期や日数について再度検討していきたい。

2) 年次有給休暇 12 日以上/年取得と残業時間の削減

年次有給休暇の取得については教務課及び事務局の平均日数は 13.0 日/人（臨時職員含む）であり目標を達成しているがばらつきがあった。子・親の介護のため 9 名の特別休暇の取得があった。休暇を取得しやすい雰囲気や休暇以外にも在宅ワークを取り入れるといった働きやすい環境づくりを心掛け残業時間の削減に努めた。

3 ハラスメントに対する認識を高める

教育機関においては、セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメントの 3 つのハラスメントがよく起こるといわれている。昨年度、心理士（師）

の視点で、「学生・教職員をまもるハラスメントの対応」として、教職員全員参加の学習会を開催した。ハラスメントの内容単独ではなく、発達障害が疑われ指導に困難感を覚える学生への対応について、事例を取り入れハラスメントと関連付けながら学習会を進められたため、その後の指導に大いに役立てることができた。

本校では、労働施策推進法、その他関係法令に基づき、ハラスメント防止及びハラスメントに起因する問題が生じた場合の適切な対処に関し必要な事項を定めることにより、教職員の就労上及び学生の就学上の快適な環境維持・改善を図ることを目的とするため、ハラスメントの防止などに関する規定を令和5年度に策定した。

ハラスメントが発生した時の対応についても共通認識することができるよう、教職員に周知を図り認識を高めていきたい。教育現場では熱意のある指導がハラスメントと判断される場合がある。そのような誤解が生じた場合、ハラスメント行為をされた側・した側の双方が納得した上で解決していきたい。残念ながら、ハラスメント発生時は規定に従い粛々と対処していきたい。

Ⅱ 教育課程経営

1 教育計画（学科進度、実習計画等）

教育目標を達成するために教育課程を構造化し編成している。教育課程の編成は基礎分野、専門基礎分野、専門分野としている。

基礎分野は、科学的思考の基盤、人間と生活・社会の理解を教育内容とし、広い視野であらゆることに興味・関心をもてるよう土台として位置づけた。

専門基礎分野は、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度を教育内容とし、看護実践における臨床判断能力の基礎として位置づけた。

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践の8領域を置き、それぞれの教育内容を構築した。治療や療養の場が病院だけでなく人々の住み慣れた地域へ広がりを見せており、地域包括ケアシステムの担い手としての看護師育成が求められている。そのため、地域・在宅看護論は、地域で暮らし生活する人々を対象として、様々な場での看護を学ぶことができるよう1年次の早い時期から基礎看護学と並行して学習できるようにした。

3年間の学習は、単純なものから複雑なものへ、基礎から応用へと思考を深め、知識や技術の定着が進むことを意図している。

学科進度は科目間の関連・順序性を考え入学時に3年間分の計画を立案しているが、祝日変更、講師・実習施設の都合等により見直しが必要なため、前年度には必ずカリキュラム委員会で再検討を行い、教育効果を高める学科進度となるよう努めている。さらに作成した学科進度を基に、各科目の教育方法に応じて効果的な学習となるよう柔軟に対応しながら最終的に授業計画（時間割）を作成している。

新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが、これまで「新型インフルエンザ感染症（2類相当）」であったが、令和5年5月8日から「5類感染症」に変更となり日常生活が戻った。今年度は対面授業で行うことができた。実習施設では、PCR検査が必須の施設もあったが、多くの施設が実習に協力的であり、到達目標に達することができた。

教科外である体育祭は、密になる競技は避けたが開催時間を今まで通りとした、学校祭は学生と教職員のみでの実施としたが、同日開催したオープンキャンパスには人数限定で外部から受け入れた。学生が主となり対応し参加者から好反応を得ることができた。

2 教員の教育・研究活動の充実状況

社会のニーズに合った看護を提供できる看護師の育成には、専門的知識・技術、豊かな人間性を身につけることを目的とした質の高い教育を学生に提供することが重要であり、看護師学校養成所の運営に関する指導ガイドラインの第5条1項12号には「専任教員は専門領域における教授方法の研修や、看護実践現場での研修を受け、自己研鑽に努めること」と明記されている。専任教員は自ら専門領域の学会・研修会に参加するなど自己研鑽に努めているが、学校として教員の自己研鑽を保障する体制を維持し、教育の資質向上が責務であると考え、研修計画を立案し予算確保に努めている。

研修計画は、コロナ禍以降多くの学会や研修が対面とオンライン・オンデマンドを併

用しての開催が多い。予算面から今までは限られた教員のみの参加であったものが、このようなハイブリッドの開催により、複数の教員の参加が可能となることや都合の良い時間や場所で繰り返し聴講できるメリットがあった。

今年度は教職員を対象に校内において「合理的配慮について」と題し臨床心理士による学習会を開催した。令和6年度に努力義務となる合理的配慮について事例を用いた講義やグループワークであったため、対応方法を考えることができ、学生との関わりについて考える一助となった。

また、愛知県看護教育研究会では「変化の時代を生きる看護師育成、これからの看護教育を考える」というテーマで夏期研修が行われオンデマンド配信で教員全員が参加した。少子化が進む中、専門学校が生き残るための戦略について、主に意識改革・教育改革・行動変容の視点の講義であった。Z世代の学生への対応、保護者対応、DX化への取り組みといった面から話され、とても興味深く視聴できた。

研究発表については、今年度も実施できなかった。しかし、時間のない中でも意識的に専門分野の研究論文を読み、最新情報を収集し教育に活用はできた。今後も意識して日々の教育活動の中から課題を見出し、研究に取り組めるよう姿勢を示していきたい。

3 学生の看護実践体験の保障

(1) 臨地実習施設における学習支援体制

第5次カリキュラム改正後2年目であり、新カリキュラム（1・2年生）と旧カリキュラム（3年生）の実習が混在している。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したものの、臨地実習施設では、感染防止のために、感染症の診断の有無に関わらず症状により実習受入れの期間が施設毎異なっていた。そのため、実習施設により学生への不利益が生じないよう実習施設の協力を得て実習期間を振替え、臨地実習を保障した。今年度はインフルエンザ罹患により出校停止になった学生もあり、これに関しても臨地での学びができるよう調整した。

小牧市民病院では、消化器外科・内科病棟が統合されたが、呼吸器病棟の実習が再開したことで、実習病棟数は確保できた。

3年次の実習では、成人看護学実習Ⅲ、小児看護学実習、母性看護学実習、在宅看護論実習、総合実習で実習期間の変更はなかった。小児看護学実習は、春日井市民病院のみで行っていたが、春日井市民病院の病棟再編により、小牧市民病院でも再開することになった。小牧市民病院の該当病棟は耳鼻咽喉科と小児科の混合病棟であり、昨年度までは成人看護学実習Ⅲで使用していた。しかし、そこに小児看護学実習が数回入ると、クール毎で実習科目が変わり混同されやすいと考え、該当病棟は小児看護学実習のみとした。母性看護学実習では、褥婦や新生児への直接的な援助が可能になった。しかし、夏季休業明けからN95マスクの装着が必須との指示を受け、学生への負担を考え、実習担当副看護局長との調整を経て、施設で準備していただいた。精神看護学実習は、実習施設2施設のうち、1施設の実習受入れが不可となり、新規実習施設の開拓を検討したが、適切な施設が確保できず、1施設で計画することになった。そのため4日間（30時間）を校内実習に切り替え、2週間で得た受持ち患者との関わりをもとに、対応の再

構成や社会復帰支援を具体的に思考する時間とした。

3年生は、老年看護学実習Ⅱ（再履修）で1名、小児看護学実習で1名、在宅看護論実習（地域包括支援センター）で2名の学生が、インフルエンザや発熱等により実習不可となり、実習期間の変更を調整し、臨地で実習できた（表Ⅱ－2参照）。

2年次の実習では、今まで、老年看護学演習の一部であった軽費老人ホームでの見学を施設で暮らす高齢者を理解する実習に変更した。しかし、利用者への感染リスク低減のため、昼食を施設で摂ることが困難との理由で、臨地実習時間を短縮し、校内実習時間を増やし対応した。そのため、新たな実習要項を作成し、実習目的・到達目標が達成できるものとした。他の特養/老健の実習は、認知症高齢者の理解を深めるために旧カリキュラムより2日間（16時間）増え、実習施設も従来の4施設に3施設加えた。2人の教員が3施設を担当し、巡回しながら学生の実習状況を把握し指導できた。老年看護学実習は地域に密着した療養病床がある春日井リハビリテーション病院で実習を開始した。実習に先立ちPCR検査が必須だったため、学生の経済的負担を強いることになった。休憩場所や記録スペースなどのハード面はもとより、看護用品や物品の取り扱い等を指導者と調整し、学生の不慣れな環境による緊張と不安を軽減するため、教員は張り付きで実習指導ができる体制をとった。様々な事柄で学生に周知することに難渋したが、大きなトラブルなく終了できた。

1年次の実習では、暮らしを知る実習期間中に新型コロナウイルス感染に罹患した学生と発熱のある学生3名に対し、2施設で振替実習をした。また、入院生活を理解する実習期間中に発熱した1名が時間数不足になり実習を振替えた。いずれも、校内では学び得ない臨地実習の意義を御理解いただき、常時、御協力いただくことで、看護実践体験の保障ができた（表Ⅱ－2参照）。

今後も、情勢の急変に臨機応変に対応し、実習施設と連絡調整を図っていききたい。また、出校停止に伴う実習の振替等の調整が必要になる可能性がある。その際には、遅れを感じる等心理的負担に対する支援が必要である。実習施設が複数ある科目の場合、施設毎の出校可能条件の差異が学生の看護実践体験の保障に影響しないようにしなければならない。なにより、新型コロナウイルス感染症のみならず、臨地実習期間中の感染症対策に対して、学生が健康管理の意識を高められるよう指導を継続する。

表Ⅱ－2：新型コロナウイルス感染症等により時期を振り替えた実習

科目名	理由	期間	学生数
暮らしを知る実習	新型コロナウイルス感染症とその疑い	2日間(12月下旬)	3名
入院生活を理解する実習	発熱	3日間(12月下旬～)	1名
老年看護学実習Ⅱ	インフルエンザ	3日間(12月下旬～)	1名
小児看護学実習(病院)	発熱等	8日間(10月下旬～)	1名
在宅看護論実習 (地域包括支援センター)	発熱等	2日間(11月)	2名

(2) 安全対策

少人数の学生に対し、臨地実習指導者と教員が指導できる環境であり、看護の提供に際し、事前に準備と方法の確認をしている。指導者や教員の指導下で実施するため、患者の安全はもとより、学生の未熟さをフォローできる環境にあり、学生の緊張を和らげ、適時適切な指導ができる。インシデント・アクシデントに対しては、報告書を書くことで、発生原因や自己の傾向から要因になり易い行動を振り返る機会になるよう、タイムリーな指導を心掛けている。インシデント・アクシデント発生により学生が看護に臆することがないように支援しながら、グループ内で事例についてディスカッションすることで誰にでも起こることとして認識できるようにしている。

今年度、インシデント・アクシデント件数は昨年に比べ増加した。学生の看護実践に際し、教員もしくは臨地実習指導者が付き添うことで、臨床判断力や危険予知力をカバーしているが、学年が上がるにつれ、実践する看護技術が多くなり、難易度が上がることや実習に対する馴れによる気の弛みなどがインシデント発生の誘因になり易い。今年度は特に母性看護学実習におけるインシデントが多発した。その原因は定かではないが、1クール当たりの学生数が多いこと、褥婦や新生児に直接、援助ができたこと、褥婦実習と新生児実習が並行していることで教員・指導者の動きがタイトで学生へのフォローが難しい可能性がある。次年度から新カリキュラムになることで1クール当たりの学生数を2～3人減らしたため、是正されることを期待したい。

本来のインシデント・アクシデント報告の意義を繰り返し伝え、自己責任を感じたり、抵抗感を抱きやすい学生の心理を理解しつつ、経験を共有し、再発防止のための対策を学ぶ機会としたい。また、臨地での経験が少ない技術に対し、講義や演習に留まらず、シミュレーターや注射モデルを用いた技術練習の機会を増やすなど、更なる学習環境の工夫が課題である（表Ⅱ－3参照）。

表Ⅱ－3：令和5年度のインシデント・アクシデント件数

学年	1年生	2年生	3年生
件数	5件	3件	7件

感染症対策は、原則感染症のない患者を選定しているが、止むを得ない場合は学生にその旨を説明している。麻疹をはじめとする感染症に対しては抗体価の有無の確認とワクチン接種を推奨している。事故発生時は医療総合補償制度（Will）で対応している。

感染症防止対策に関しては、コロナ禍に引き続き、学生控室や学習室・休憩室を確保していただき、3密を避けている。小牧市民病院は、1回当たりの実習生数が多いため、更衣室での密集・密接を避け、更衣中もマスクを外さないように注意している。休憩時間は2部制にし、食事時の黙食とテーブルの消毒を徹底した。入院生活を理解する実習は初めての病院実習であり、通学負担軽減を考慮してスクールバスを配車しているが、密集・密接を緩和するため、大型バスを配車した。これらの感染症防止対策は今後も継続する必要がある。

学生の健康管理に関しては、毎日2～4回の検温と自覚症状の有無を健康チェック

表に記載し、担当教員が確認した。両市民病院では、実習前に感染症に対するオリエンテーションパンフレットを精読し実習に臨んでいる。マスクやゴーグル・フェイスシールドは各自で購入し、環境整備用消毒クロスを実習施設が準備し、感染症防止を徹底している。実習開始前からのアルバイト禁止や不要不急の外出を避けるなど、看護実習生としての感染予防行動が身に付いていると評価できる。

その他、実習中や実習施設への通学中の重大事故もなく、安全に実習できた。実習に対する緊張や不安軽減のため、他学年との交流は新カリキュラムより教科外活動と位置づけ実施した。先輩からの事前準備や経験談などを聴き、後輩は不安や分からないことを質問するなど、学年を超えた活発な交流となり、不安軽減の一役を担えたと考える。さらに、その後の身近な関係性のきっかけ作りとなった。

臨地実習では生命に関わる責任から時に厳しい指導がパワーハラスメントやアカデミックハラスメントになる危険性がある。様々な場面で学生の尊厳が否定されることがないように細心の注意を払い学生と関わる必要がある。ハラスメント予防はもちろん、発生時の早期対処のために、相談しやすい環境づくりと学校内と実習施設の報告・連絡方法を講じ、学生が安全に安心して学べるようにしなければならない。

III 教授、学習及び評価過程

1 授業の展開過程（履修形態の選択、指導技術の工夫等）

「授業案内」（シラバス）は、科目目標・概要、授業計画、テキスト・参考書、評価方法等を明示している。1・2年生は新カリキュラム、3年生は旧カリキュラムによる授業案内を別々に作成し、4月に配布した。「授業計画」（時間割）は前期・後期に分け配布している。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更されたことから、これまで流動的に使用していた教室を、学年毎に固定し、基本的な学生生活は同じ空間で送れるようにした。1年生は47名の入学があり、40名定員の通常教室では過密となるため、床面積の広い多目的室1を固定教室とした。各教室はこれまで同様に換気を継続し、CO2センサーを注視しながら対面授業を行った。

マスク着用などの基本的感染対策は一律に求めず、個人の判断に委ねたが、クラス内での感染症蔓延の可能性が考えられるグループワーク、校内実習でマスクの着用を促し、咳嗽など症状がある学生に対しては、教室以外の別室でオンライン受講ができるように調整した。状況に応じた方法で、出来るだけ学生間の学びの共有や学習効果が得られるように学生の協力を仰ぎながら、感染症防止対策に努め、対面授業を継続した。新型コロナウイルス感染症等の罹患により出校停止となった学生に対しては、体調が芳しい時に限り本人による申告制でTeamsを活用したオンライン受講を調整し、学習の機会を保障した。

新カリキュラムの基礎分野では、思考と表現や情報リテラシーにおいてiPadやTeamsの活用方法を学び、あらゆる媒体での表現方法を発表やレポートなどで実践できた。

専門基礎分野である疾病治療論は、外科系、内科系共に臓器系統別と小児、母性、精神の疾病治療論もあわせすべて2年生科目となった。1年生で形態機能学、2年生に疾病治療論を集中させ、正常な機能の理解から疾患の理解へと段階を踏むことができた。

専門分野では、診療の補助技術が軸となる基礎看護技術Ⅵ、Ⅶが2年生科目となり、疾病治療論と基礎看護技術、成人看護学領域の臓器系統別看護が相互にリンクし、疾患と看護と技術が一連の流れで思考できた。また臓器系統別看護では、形態機能学を教授した教員が、同一臓器の看護を担当することで、昨年教授した文言やエピソードを用いて知識を想起させることができ、既習の知識を活用して新たな治療、看護に結び付けられるようにした。

統合分野では、2年生科目に災害看護と国際看護が開講した。災害看護では、トリアージ訓練を校内実習で行い、神戸での研修旅行の行程の一部で「人と防災未来センター」を見学した。当施設では、阪神淡路大震災からの教訓を体感して学びを深め、後日発表会を実施し学びの共有化を図った。

新カリキュラムから研修旅行は海外から国内の一泊二日の旅行に変更した。災害看護を学ぶための研修時間を設けながら、ディナークルーズや神戸市内の自由散策などリフレッシュの機会となった。新型コロナウイルス感染症などのリスクを鑑み、宿泊は全個室とした。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更されたものの、臨地実習の施設によっ

てはその対応が異なった。実習そのものが中止になることはなかったが、施設の対応策により実習日を振替え、学生に不利益がないように調整した。

2 目標の到達の評価とフィードバック

(1) 講義の授業評価

授業評価アンケートは、10 項目の評価項目に対して 5 段階の評価尺度を用いて行っている。内訳は、「はい：5 点」、「どちらかと言えばはい：4 点」、「どちらとも言えない：3 点」、「どちらかと言うといいえ：2 点」、「いいえ：1 点」として得点化している。

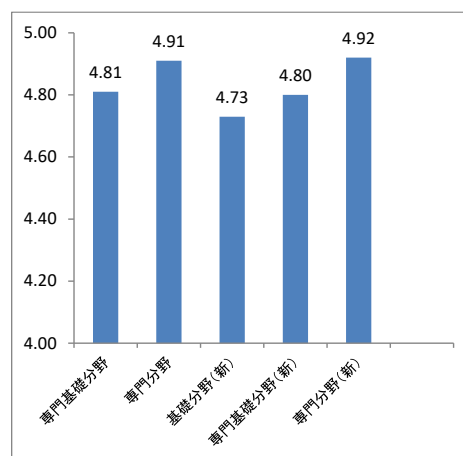
新カリキュラム導入から 2 年が経過し、旧カリキュラムと並行してのカリキュラム運用も 2 年目となった。授業評価の集計は新カリキュラムの分野の分け方に統一し、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」とした。分野毎で項目の平均値を出し、授業評価結果として示した。また、新カリキュラムのみの平均値を出し、比較できるようにしている。

ア 令和 5 年度は講義の授業評価を 56 (49) 科目実施 () 内の数は前年度値

基礎分野	6 科目 (7)
専門基礎分野	18 科目 (16)
専門分野	32 科目 (26)

イ 分野毎の平均値 (図Ⅲ－1 参照)

基礎分野	全体	4.73 点 (4.61)
	新カリ	4.73 点 (4.57)
専門基礎分野	全体	4.81 点 (4.74)
	新カリ	4.80 点 (4.67)
専門分野	全体	4.91 点 (4.78)
	新カリ	4.92 点 (4.87)



図Ⅲ－1 令和 5 年度 分野別授業評価の平均

分野毎の授業評価の平均は、昨年と比較するとどの分野も上昇しており、すべての分野で 4.7 以上と高い評価である。また新旧カリキュラムの授業評価を比較するも大差なく、新カリキュラムも順調に運用できていると評価する。

今年度は新型コロナウイルス感染症流行前とほぼ変わらない授業形態でできたことや、新カリキュラム導入に伴い教員が授業構築に時間をかけ精選し、効果的な授業方法を選択したことなどが授業評価の上昇につながったと推察する。

基礎分野の評価の平均は、4.73 点で昨年よりも +0.21 点である。一番評価が低い項目 9 「意欲的に取り組んだか」も 4.54 と高評価であり、学生は関心をもって授業に取り組むことができたと考えられる。

今年度基礎分野において授業評価対象科目のうち 1 名が新たな非常勤講師となったが、4.8 以上と高評価であり学生の満足度は高かった。

専門基礎分野の評価の平均は 4.81 点、新カリキュラムのみは 4.80 点で昨年と比較すると +0.06 点である。特に疾病治療論の授業評価が 4.72～4.99 と高い。これは病理学、人体とくすり、診断と治療等の科目を履修したのちに疾病治療論を学ぶことができ

るよう、新カリキュラムからすべての疾病治療論を2年次に配当したことが一因と考える。それと比較して1年次科目の形態機能学、栄養と代謝、人体とくすりなどの評価が低いため、担当の非常勤講師と調整を図りながら学生の理解を深めていきたい。

専門分野の評価の平均は4.91点、新カリキュラムのみは4.92点であり、昨年と比較すると+0.13点である。高評価を維持しており、専任教員が授業を工夫している成果がみられる。

ウ 評価項目における分野間での比較 (表Ⅲ－1 参照)

3つの分野間で0.2点以上差があるものは5項目、0.3点以上差があるものは「授業はわかりやすいか」の1項目であった。基礎分野が全体的に低いが、非常勤講師が担当しているため、「授業のわかりやすさ」については、レディネスの把握不足や質問のしにくさがあると推測する。

エ 今後について

新カリキュラムは出題基準や学習の効率化等を考慮して再構築し、学習内容、進度を変更した。疾病治療論が2年生に開始となり、その後臨床看護が続くが、授業評価の高さから判断すると学生は知識の整理がしやすくなっているように感じる。成績結果も照らし合わせながら学生の理解を把握し、さらなる学生の理解を深めるような教育を目指していきたい。

また、校内のICTを効果的に活用した授業の工夫も少しずつだが進んでいる。現在は教員個人のICT活用能力に委ねられているが、今後は学校全体で情報を共有しながらICTを活用した「わかる授業」をさらに目指しDX化を推進していきたい。

表Ⅲ－1 令和5年度の各分野における授業評価一覧

項目	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	全科目の 平均値
1 予定に沿って計画的に授業が行われましたか。	4.83	4.87	4.95	4.91
2 授業の内容はわかりやすかったですか。	4.59	4.74	4.89	4.81
3 学生が質問や意見を言いやすいように配慮していましたか。	4.64	4.79	4.90	4.84
4 専門用語やなじみのない用語に対して、わかりやすい説明がありましたか。	4.75	4.81	4.92	4.87
5 黒板、スライド、資料などの視聴覚教材は授業の理解を助めましたか。	4.78	4.81	4.90	4.86
6 担当者の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.67	4.85	4.91	4.86
7 担当者の、授業に対する熱意を感じましたか。	4.85	4.88	4.95	4.92
8 授業時間をむやみに延長したり短縮することはありませんでしたか。	4.91	4.81	4.97	4.91
9 あなたは、授業に意欲的に取り組みましたか(予習・復習、技術練習)	4.54	4.68	4.82	4.74
10 あなたは、この授業で新しい知識や技術が身につきましたか。	4.74	4.85	4.94	4.89
平 均 値	4.73	4.81	4.91	4.86

(2) 実習の授業評価

ア 総体評価

1 年次（35 回生）の入院生活を理解する実習、基礎看護学実習、2 年次（34 回生）の急性期看護実習、施設で暮らす高齢者を理解する実習、老年看護学実習、3 年次（33 回生）の成人看護学実習Ⅲ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習、総合実習全ての平均点は 4.85 点である。各項目の平均点は 4.00 点以上であり、良い評価が得られた。項目 3「良好な人間関係の構築」は 4.95 点と最高点だった。次に項目 5「学習の協力」は 4.94 点となっている。学生同士が共に学び合い、協力して臨む学習姿勢が感じられる評価であった。

項目 1～5 の学生の実習への取り組みの平均が 4.90 点、項目 6～13 の教員・臨地実習指導者の指導方法の平均点は 4.83 点、項目 14～17 の学習環境の平均は 4.84 点といずれも高い。臨地実習に取り組む姿勢は、意欲的であったことが感じられる。

イ 科目別評価

入院生活を理解する実習の平均点は 4.92 点で、項目 9「質問しやすい雰囲気」、項目 10「尊重した態度」、項目 16「記録場所」の平均点は 5.00 点と最高点であった。項目 4「自分の思考の口述」の平均点は 4.76 点と最低点であった。初めての病院実習で不安や戸惑いもあったが、実習しやすい環境調整や熱意ある指導に感謝の言葉や学びの多い実習となったことが多くコメントに書かれていた。

基礎看護学実習の平均点は 4.94 点で、項目 6「援助場面での適切なアドバイス」、項目 10「尊重した態度」、項目 11「教員や指導者の態度から学ぶ機会」、項目 12「教員と指導者間の連携」の平均点は 5.00 点と最高点であった。項目 1「実習要項の精読」の平均点は 4.75 点と最低点であった。

個性に合わせた看護援助をどのように実践するかを考える実習となった。また情報収集・分析を踏まえ、看護過程の展開や看護技術、コミュニケーションなど沢山の経験をすることができた。今後の学習意欲や看護観の育成へつながる学びとなった。

急性期看護実習の平均点は 4.86 点で、項目 2「実習への興味」の平均点は 4.95 点と最高点であった。項目 7「実習記録に対する助言」の平均点は 4.68 点と最低点であった。手術前から退院までの看護を学び、手術に対する患者の気持ちに触れ、手術後の観察の難しさを実感していた。また血糖検査など知識と技術を結びつけ、基礎看護技術の修得もできた。実習終了 16 時を過ぎてから実習記録の指導や助言、技術チェックに対し、16 時に一旦終わってもらいたかったとのコメントがあり、16 時以降の記録指導や技術チェックなど効果的な学習支援の時間となるように努めていく。手術室や ICU の見学実習では、無菌操作やガウンテクニックなどの基礎看護技術の修得にもつながり、急性期の特徴を理解する学びができた。

施設で暮らす高齢者を理解する実習の平均点は 4.89 点で、項目 1「実習要項の精読」、項目 2「実習への興味」、項目 4「自分の思考の口述」、項目 8「良好な人間関係の調整」の平均点は 4.97 点と最高点であった。項目 15「物品の不足」の平均点は 4.78 点と最低点であった。病院と施設の物品の違いや不足を感じていたが、施設全体の実習の受け入れは好意的な印象があり、自分の思いや考えを伝えやすい環境で実習できた。

老年看護学実習の平均点は 4.82 点で、項目 1「実習要項の精読」、項目 2「実習への興味」、項目 4「自分の思考の口述」の平均点は 4.98 点であった。初めての实習施設であったが、指導者を始め、病棟の看護師や介護士の指導から様々な援助を経験し、理解できた。項目 17「必要な文献や資料」の平均点は 4.33 点、項目 12「教員と指導者間の連携」の平均点は 4.53 点と低値であった。指導内容の違いや指導方法に対し、精神的に辛いことも多かった言動があり、今後、指導者や施設との連携を深めていく必要がある。受持ち患者によっては達成し難い評価表の項目もあったが、高齢者の発達段階や特徴を踏まえ、学習や援助が工夫できた。

新カリキュラムから 2 年生は、新しい施設や病院が実習施設となった。実習期間が約半年空いた臨地実習であったが、新たな学びや考え方が得られ、成長できた実習となった。実習時間数の減少や実習施設の指導体制の違いから基礎看護技術修得率は減少傾向にあるため、卒業時までには修得すべき基礎看護技術を修得できるように学習環境を整えていく。

成人看護学実習Ⅲの平均点は 4.94 点で、項目 3「良好な人間関係の構築」、項目 5「学習の協力」、項目 11「教員や指導者の態度から学ぶ機会」、項目 16「記録場所」の平均点は 5.00 点と最高点であった。項目 4「自分の思考の口述」の平均点は 4.76 点と最低点であった。グループメンバーや教員・指導者へ自分の思いや考えを述べるが消極的な姿勢や性格も影響していると推測する。化学療法や緩和ケア、検査や処置の見学、終末期看護など様々な経験ができ、学びを深められた。併せて指導への感謝の言葉もあった。

小児看護学実習の平均点は 4.96 点で、項目 6「援助場面での適切なアドバイス」、項目 13「適切な指導、助言」は平均点 5.00 点と最高点であり、項目 4「自分の思考の口述」は平均点 4.84 点と最低点であった。すべての項目において、高値であった。小児や家族とのコミュニケーションに戸惑いを感じながらも、看護師の関わり方やカンファレンスの助言から小児との関わり方や援助方法を学ぶことが多く、日々の実践を通じて、成長を実感していた。

母性看護学実習の平均点は 4.36 点で、項目 3「良好な人間関係の構築」、項目 5「学習の協力」は平均点 4.89 点と最高点であった。項目 9「質問しやすい雰囲気」は平均点 3.54 点と最低点であった。質問しにくい、できない雰囲気を感じていたようで、病棟や指導者とタイムリーに調整や連携をとり、実習環境を整えた。実習中に生命の誕生に立ち会い、胎盤を見るなど貴重な体験をし、感動した思いもコメントに綴られていた。

精神看護学実習の平均点は 4.88 点で、項目 10「尊重した態度」は 4.98 点と最高点であった。項目 15「物品の不足」は 4.73 点と最低点であった。難しいや怖いなどのイメージ、患者の発言から想像して気持ちを理解し、看護の視点を考える学びができたようである。臨地実習と校内実習の期間が少し空いてしまうグループもあったが、臨地実習の経験を活かし、学びの整理や共有学習を行うことができた。

在宅看護論実習の平均点は 4.92 点で、項目 8「人間関係の調整」、項目 9「質問しやすい雰囲気」、項目 14「施設全体で指導する雰囲気」、項目 15「必要な物品」は平均点 5.00 点と最高点であった。項目 4「自分の思考の口述」は平均点 4.64 点と最低点であった。在宅という個人の生活環境に 1 人で行く訪問看護の場に緊張感もあったが、訪問

看護ステーションのスタッフからの丁寧な指導により、在宅における看護技術や関わり方を学ぶ実習となった。

総合実習の平均点は 4.91 点で、項目 14「施設全体で指導する雰囲気」、項目 15「必要な物品」、項目 16「記録場所」は平均点 5.00 点と最高点であった。項目 12「教員と指導者間の連携」は平均点 4.70 点と最低点であった。メンバー研修やリーダー研修をととして、身近なグループメンバーとの連携の必要性を感じていた。チーム医療の必要性や時間管理、多重課題への優先度を考えるなど、3 年生最後の臨地実習として、主体的に学び達成感も得られた実習となった（資料 2 参照）。

ウ 評価項目別評価

学生の実習への取り組みは、項目 3「良好な人間関係の構築」の平均点 4.94 点と昨年に引き続き最も高い。教員・臨地実習指導者の指導方法は、項目 11「教員や指導者の態度から学ぶ機会」の平均点 4.89 点と高い点数となっている。熱心な指導や分かりやすく指導してくださる姿勢から多くの学び得ていることが分かる。項目 12「教員と指導者間で指導の連携」の平均点は 4.75 点と他項目と比較すると低くなっている。新カリキュラム移行期間であり、新しい実習施設が増え、連携の必要性を感じている。施設によって、学習環境や指導体制の違いはあるが、実習目標の到達には差違が生じないように努めていく。

令和 6 年 4 月 1 日から合理的配慮の提供が義務化される。またパワーハラスメントなど安全配慮義務においても、学生個々の性格や特性を踏まえ、支援していく必要性が求められる。学生の学ぶ権利意識が強くなりすぎて、実習施設や指導者・対象者などに影響がないようにコミュニケーションを密にとり、人間関係の構築や連携をとっていく。

エ その他

昨年、SNS に慣れ親しんでいる学生にとって、簡易的にコメントも入力しやすいと考え、授業評価の回収方法を Microsoft Teams からの入力に変更したが、用紙配布に比べ回収率が低下した。そのため、臨地実習終了時に現行の用紙を配布する方法に戻した。授業評価の意図を伝えたことで、回収率は（欠席によるものを除き）100%となった。コメントも多く、直筆で書くことで筆跡から個人の特定を心配する学生もいるが、より良い臨地実習になるような意見や思いが綴られていた。グループメンバーや施設、指導者に対する正直な思いが良くも悪くも表現されていることがある。改善が必要な事案は、タイムリーに事実確認を行い、双方の思いを聴き調整に努めていく。また、学校と実習施設との連携は重要であり、今後も関係性の構築を図っていく。

(3) 成績分布

講義や演習は対面授業とした。しかし、新型コロナウイルス感染症等による出校停止者に対し、学生の体調と希望を聴取し、随時遠隔授業に参加できるように準備した。

ア 1年生の成績について

基礎分野：11科目、専門基礎分野：11科目、専門分野：15科目が履修科目である。基礎分野では大学等で履修し単位認定されている学生がいる。

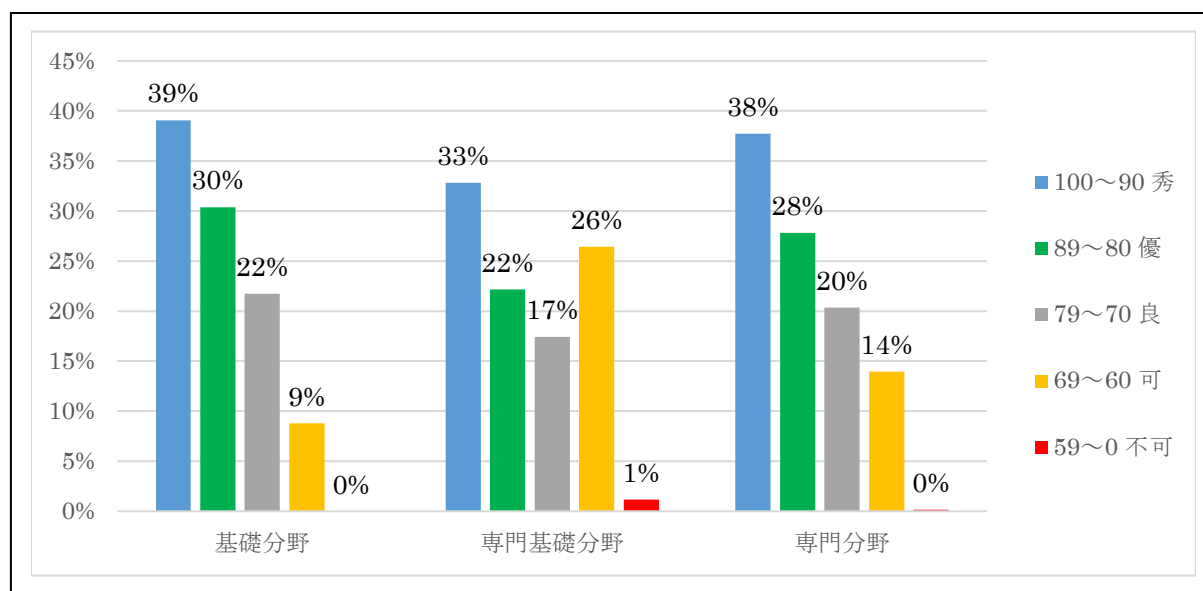
基礎分野の成績は、80点以上が約70%を占めている。自己の思いや考えを言語化する力や創造性を鍛え、専門基礎科目や専門科目の学習の基盤となるよう、グループワーク、ディスカッションを経験し、協調性や主体的に学ぶ力が身に付いていると評価できる。しかし、成績分布は昨年度に比べ全体的に低下しており、80点以上が約82%から69%に減少した。

専門基礎分野の成績は、80点以上が約55%を占めている。形態機能学の一部は教員が教授し、ワークシートやモデル人形、呼吸・循環の仕組みを学ぶための道具等、体感しながら興味関心が持てるよう工夫している。これらの学習は疾病治療論や臨床看護の要になる。また、アセスメントに必要な知識であり、看護実践の根拠になる。しかし、形態機能学や病理学、人体とくすり、診断と治療は専門性が高くなり未修得者や再試験者が多く、成績分布は基礎分野同様、全体的に低下しており、60点台が昨年度に比べ11%増加した。人間理解や看護を学ぶ上で土台となる科目の理解の低下を危惧している。講義の工夫だけでなく、復習など個別支援を具体的に検討する必要がある。

専門分野は、基礎看護技術などの科目を含み看護基礎教育の根幹を成す。教員により、アクティブラーニング、グループワーク、校内実習を繰り返し、随時レポートを課すなどの工夫をしている。しかし、成績分布は昨年と比べ90点台が48%から38%に減少、60点台が8%から14%に増加し、全体的に学力が低下している。領域別に成績をみると基礎看護学領域の科目は、概ね平均点80%以上を維持しており、基礎看護技術を重視する本校にとっては良い結果となった。地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学概論は、既習知識を駆使した思考力と積極的な授業態度が求められ、難易度が上がるため、再試験者が多くなっている。2科目の臨地実習では、それぞれ1名ずつの不合格者がおり、3月末に再実習を調整し実施した。いずれも実習姿勢が改善し修得できた。

成績低迷者は、思考力を問われることに難渋しやすく、また、専門用語に限らず、文章自体に戸惑いが多く読解力に影響し、苦手意識が増幅する印象がある。さらに、授業中の集中力や資料の整理、学習習慣、情緒面の不安定さが学業に影響していると考えられる。そのため、適宜面接や声掛けをしながら、学習方法の見直し、学習姿勢やクラスメイトとの関係性等を把握し、心身両面から学習支援を丁寧に行っている。必要時は学生の許可を得て、家族と連絡を取り、自宅での学習環境を調整している。再試験及び未修得科目が多い学生は特定されやすく、未修得科目は2年次配当科目の履修に影響するため、未履修科目をもつ学生は、本人・家族・教員2人の4者面談を行い現況報告と学習支援を依頼し、学年担当が次年度の再履修に向けた講義の調整方法や履修計画を指導した（図Ⅲ－2参照）。

図Ⅲ－２ １年生分野別成績分布



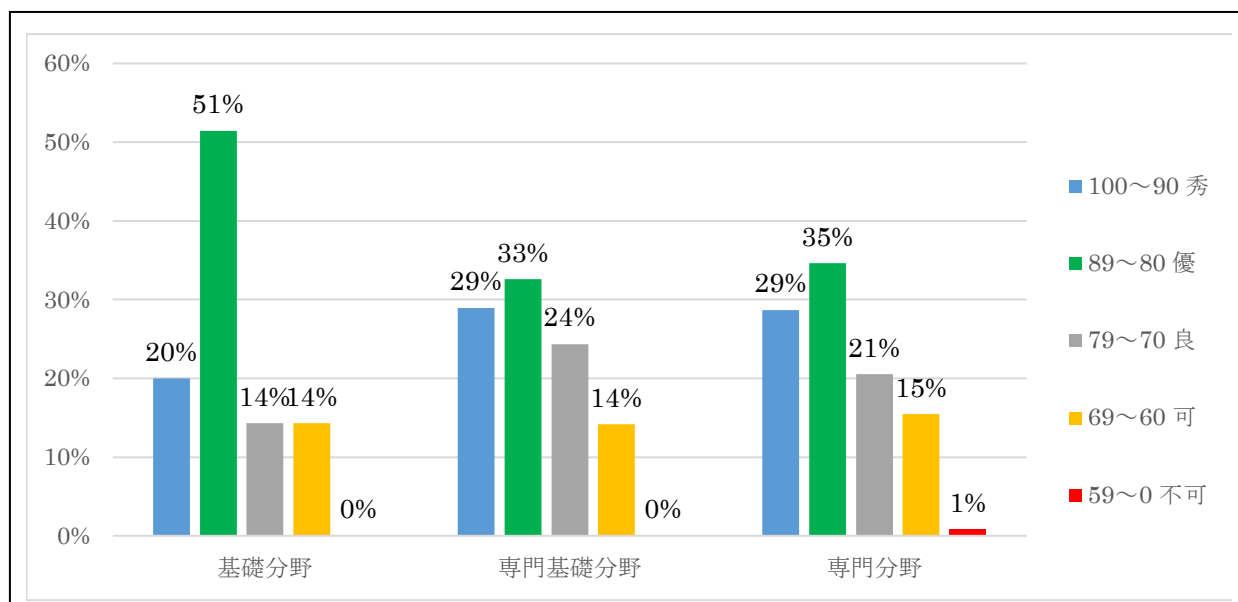
イ ２年生の成績について

基礎分野：１科目、専門基礎分野：８科目、専門分野：２７科目が配当科目である。

基礎科目の成績は良好である。専門基礎科目の成績分布は 70 点台が多くなり、一部、再試験で修得した。疾病治療論は多数の講師による広範囲な学習内容となり、１年次の形態機能学や病理学等の知識がベースとなるため、１年次科目の知識定着が乏しい学生の成績不振が多い。

専門分野は専門基礎分野の知識を基に、成人をはじめ各領域の看護に繋げ学習内容が深化するため事例を用いたり、自己学習と講義を組合せ、学生のモチベーションを維持する工夫をしている。しかし、学習意欲や集中力の維持・コントロールに難渋した学生は複数科目で成績が低迷しており、再試験及び未修得になった。３科目の臨地実習は発達段階の特徴や経過別・疾患・治療・検査の理解を加味したアセスメント力が必要になるため、基礎看護学実習の成績が芳しくなかった学生に対し、実習目標の達成に向け指導を重ね支援を継続した。再試験が多い成績低迷者や未修得科目をもつ学生に対して、随時面接を重ね、学習面に影響すると思われるアルバイト、人間関係の不調和等の要素を見つけ、家族と連携し学業環境を整えるよう、早期に本人・家族・教員２人の４者面談を行った。しかし、知識や技術の乏しさとは別の生活環境、意欲・持続性に問題を抱える学生もあり、現代若者の特性と学生個々の背景を理解しつつ、学習意識への働きかけをタイムリーに繰り返していく（図Ⅲ－３参照）。

図Ⅲ－３ ２年生分野別成績分布



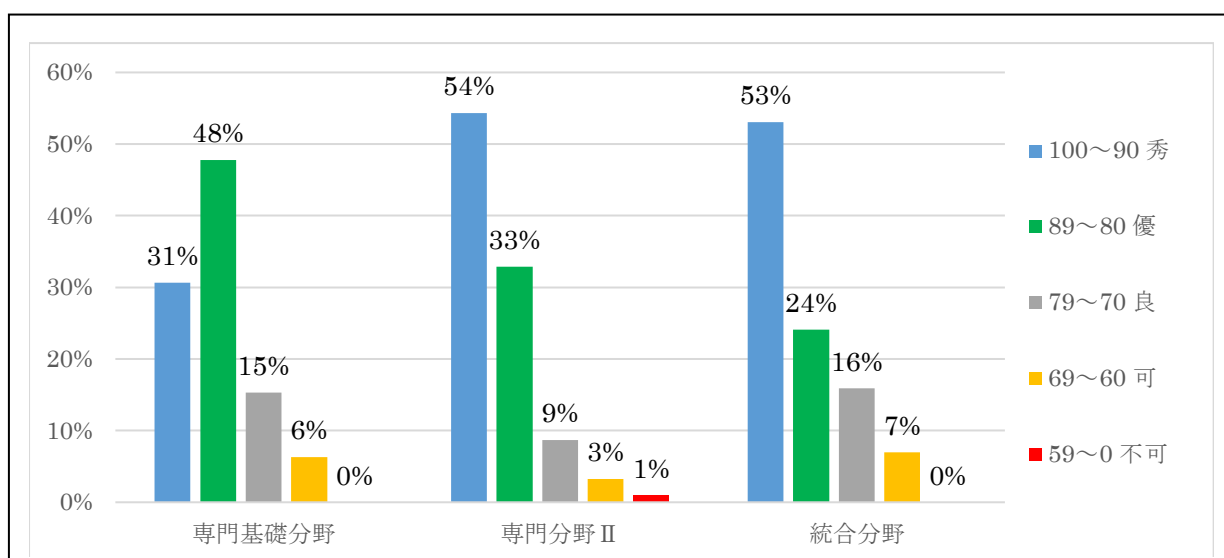
ウ ３年生の成績について

専門基礎分野：３科目、専門分野Ⅱ：９科目、統合分野：９科目が配当科目である。平均点は良好だが、16科目中、11科目で低下した。３年間で身に付いた学習習慣により、主体的・計画的に学習が進むため、実習に疲弊することなく試験に臨めている学生が多いが、僅かに学習習慣の乏しい学生が目立った。成績分布を昨年度と比較すると、専門分野Ⅱの90点台が最多になった。

臨地実習は新型コロナウイルス感染症等により欠席があったが、カリキュラム通り実施でき、各科目の実習目的・目標は達成できたと評価できる。再履修を要した実習科目（老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ）に対しては、実習施設と調整し、滞りなく履修できた。

卒業時の到達目標到達度調査19項目の平均は4.79点（前年度比－0.08点）である。また、項目8）～11）の看護実践能力の平均は4.70点（前年度比－0.1点）といずれも微減したが、令和２年度とは大差ない。臨地実習での基礎看護技術修得率は、80%以上修得項目が28項目（前年度33項目）、100%修得項目は10項目（前年度14項目）と減少した。１・２年次の実習期間中に新型コロナウイルス感染症防止対策で援助内容に制限があったことが一因と考える。個人の修得数の平均は47項目で、31項目から60項目と大差である。実施していてもチェックを受ける余裕がない学生、受持ち患者の状況により経験できず、機能別での経験さえ逸している学生、受持ち患者の変更により情報収集に追われ技術チェックに及ばない学生等、様々な理由が考えられる。一概には言えないが、修得率は積極性や行動力にやや比例している印象もある。臨地実習の時間数は旧カリキュラムより短縮され、経験できる機会は減少している。新カリキュラムから創設した実践活動外学習で座学だけでなく、技術練習の機会を増やししながら、臨地で経験し難い技術の充実を図るとともに指導者や教員からの積極的な声掛け、実習オリエンテーション時の意識付けなど、現在の取り組みを継続しながら、技術修得に貪欲になってもらうための働きかけをしなければならない（図Ⅲ－３、資料３・４参照）。

図Ⅲ－4 3年生分野別分布



IV 卒業・就業・進学状況

1 看護師国家試験の状況

看護師国家試験合格状況については、表Ⅳ－１のとおりである。

令和５年度までの卒業生 1,235 名が合格している。新卒者の全国平均の合格率に比べ、本校は高い合格率となっているが、今後も一層指導の充実を図り合格率の向上に努めていきたい。

表Ⅳ－１ 看護師国家試験合格状況

受験年度	受験者（名）	合格者（名）	本校合格率 （％）	新卒者の全国 平均合格率 （％）
令和元年度	38	38	100.0	94.7
令和２年度	32	32	100.0	95.4
令和３年度	36	36	100.0	96.5
令和４年度	38	37	97.4	95.5
令和５年度	34	34	100.0	93.2

2 進路、就職状況

本校は、春日井市、小牧市共同で設立、運営されている学校であり、卒業生の主たる就職先は、春日井市民病院、小牧市民病院である。

学生の進路選択においては、１年次に、両市民病院の担当者から、病院施設の具体的な説明や福利厚生などの説明を受けている。また、進路選択の一助として２年次の３月に、「卒業生と語る会」を実施し、両市民病院に就職した様々な経験年数の卒業生を招き、臨床現場の状況についてチーム医療に携わる現場の実際や卒後教育など、先輩看護師から話を聞き、直に交流ができる機会を設けている。

就職試験前には、外部講師による「接遇研修」を行い、具体的な就職活動や面接時の留意点、身だしなみや社会人としてのマナーなどを身につける機会を設けている。

さらに、進路希望調査を行い、学生の状況を把握し、適宜、助言・相談に応じている。

(1) 就職

過去５年では、卒業生の 97.2％が医療機関に就職をしている（表Ⅳ－２参照）。

春日井市民病院、小牧市民病院への就職が全体の約 77％を占めており、今年度は 90.6％が両市民病院へ就職し、多くの学生が就職先の市看護修学資金の貸与を受けている。

居住地区や私事により、その他両市以外の愛知県内、県外の病院へ就職する者もあるが、令和５年度の卒業生に関しては県内病院へは３名と過去５年間では最も少なくなっており、県外病院は０名であった。

(2) 進学

保健師・助産師資格取得のための進学等は、この5年間で5名であり、以前よりも進学する学生数は減少している。令和5年度の卒業生では、保健師、助産師の養成校へ各1名、合計2名が進学した。

各学年の個人面接において進学希望者を把握し、学生の状況に応じて相談や学習支援を行っている。

表Ⅳ－2 就職・進学状況

(単位：名)

卒業年度	卒業生	医療機関					進学 その他
		春日井 市民病院	小牧 市民病院	他の 県内病院	県外の 病院	計	
令和元年度	38	13	16	8	1	38	0
令和2年度	32	13	12	4	2	31	1
令和3年度	36	15	8	11	1	35	1
令和4年度	38	13	15	8	1	37	1
令和5年度	34	14	15	3	0	32	2

3 現在の活動状況（春日井・小牧市民病院、本校）

春日井市民病院の在籍者数は163名であり、うち副局長1名、看護師長4名、主査9名、助産師4名、がん看護専門看護師2名、感染管理認定看護師1名、がん性疼痛看護認定看護師1名、がん化学療法看護認定看護師2名、慢性呼吸器疾患看護認定看護師1名、認知症看護認定看護師1名、皮膚排泄ケア認定看護師1名が活動している。

小牧市民病院の在籍者数は166名であり、うち副局長1名、副主幹（師長）1名、看護師長1名、主任12名、助産師8名、保健師2名、緩和ケア認定看護師3名、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師1名、感染管理認定看護師1名が活動している。

本校の教員として、卒業生5名が看護教育に携わっている。

看護職は生涯をとおして働き続けることができる専門職であるが、免許取得後も時代の変化に対応するために継続して学習し、能力開発や維持が求められる。本校は「地域に貢献できる看護実践者を育成すること」を理念としており、教育目標を「向上心を持ち、主体的に学習する態度が身につく」としている。両市民病院には、卒業生の約3割である329名が現在も在籍している。卒業後キャリアアップし、専門看護師・認定看護師、管理職である副局長・看護師長として活動している。また、地域の支援病院や訪問看護ステーション、老人福祉施設、障がい者生活支援施設等で看護師として活躍する卒業生も増えており、臨地実習指導者やスタッフとして、学生指導に携わっている。

これらのことから、自己研鑽し学び続ける看護師、地域に貢献する看護師として活躍していることがわかる。今後も継続教育に繋がるよう看護基礎教育を充実したい。

4 その他

令和5年度に休学した学生はないものの過去5年間では15名の学生が進路の迷い等で休学している。その中で復学する学生は過去5年間では66.7%である（表Ⅳ－3参照）。

全国3年課程の看護師養成所の退学率は、厚生労働者が公表している看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査から、過去5年間の平均で11.0%である。

本校の退学率は、7.9%（1,397名中110名）で、全国平均よりも低く、進路変更が主な理由で、退学時の学年で見ると、1年生及び2年生で約8割を占めている。

休学及び退学者を減少させるためには、学生相談を活用しつつ、学年担当を中心に多くの教員等が、継続的に学生の個々の悩み等に適宜対応していくなど、地道な努力が重要であると考ええる。

また、令和2年度には、ホームページのリニューアルを、令和3年度には、アドミッション・ポリシーを公表するとともに、オープンキャンパスや入学式など学校のイベントや授業や演習に取り組む学生の様子、進路説明会への参加情報などを積極的に発信し、入学後の意識ギャップを生まないための受験生や受験生の家族への情報を充実させた。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

- 1 看護師として地域社会に貢献したいという明確な意思を持っている人
- 2 人と関わるのが好きで、相手の気持ちをわかろうとする人
- 3 他者の話を聴き、自分の考えを伝えることができる人
- 4 自己の生活を整え、心身の健康管理ができる人
- 5 自ら意欲的に学習し、物事に誠実に取り組むことができる人

表Ⅳ－3 休学・復学・退学の状況

年度	休学者数	復学者数	退学者数
令和元年度	3	3	3
令和2年度	9	3	8
令和3年度	3	3	5
令和4年度	0	1	3
令和5年度	0	0	1

※ 休学者数、復学者数及び退学者数については、重複する場合がある。

V 経営及び管理過程並びに財政

1 施設設備の整備

開校から 35 年以上経過し、老朽化により建物・施設に不具合が発生している。令和 5 年度には、1 階及び 2 階空調設備の更新工事を行った。

今後も、令和 2 年度に策定した施設中長期整備計画の趣旨に添い、適切な更新工事等を行っていく。令和 6 年度には 3 階実習室空調設備の更新工事、令和 7 年度に 3 階多目的室等及び講堂の空調設備の更新工事を予定しており、これで施設中長期整備計画に基づく一連の空調設備の更新工事を完了する予定だが、大型空調機の整備等の大規模な更新工事が必要なため、その手法や整合性を十分検討しながら進める。

学生用の設備としては、休憩時に使用できる給茶機、資料作成を支援するための印刷機やプリンター、コピー機を設置している。

通学の利便性を向上させるため、学生用の自家用車駐車を有料で貸し出している。

2 教材整備

(1) 備品購入及び廃棄備品について

1 ベッドにつき 1 台設置している床頭台は、開校時より使用しており経年劣化によりキャスターの破損が多く、スペアキャスターで修繕して使用していた。しかし、メーカーでのスペアキャスターの生産が終了し修繕が不可能になったため、床頭台を新たに購入した。

カリキュラム改正に伴い、基礎看護技術修得の内容や到達度が見直され、基礎看護技術Ⅶ（与薬・診療時の援助）では、新たに座薬の投与、輸血の管理が校内実習に追加された。これに伴い、実際の座薬（新レシカルボン座薬）や模擬血液が充填されている濃厚赤血球輸血パックと輸血用ルートを購入した。校内で実習またはデモンストレーションの見学および一部実施で技術の認知を深めた。

1 年生が 47 名入学し、患者用寝衣が不足した。そのため、ワンピース型病衣を追加購入し看護物品の充足を図った。

令和 2 年度から愛知県看護協会からシミュレーター人形が借用できる体制がある。新カリキュラムにおいても基礎看護学領域、成人看護学領域の科目で借用し、臨床判断能力の育成のため継続してシミュレーター人形を使用している。

3 学生生活の支援

(1) 図書について

蔵書数、図書受け入れ数、図書の貸し出し冊数は、下表のとおりである。今年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に変更され、小牧市民病院の呼吸器科や消化器科での病棟実習が再開した。それに伴い、呼吸器疾患別看護の電子書籍を購入した。電子書籍は、基礎看護技術系を始め疾患別看護など講義や臨地実習で活用しやすいものが多く閲覧されており、閲覧数は昨年度よりも増加している。

図書の他にも医学書院のテキストにある動画やナースングチャンネル（映像配信システム）の活用、1 年生では QR コードを読み取りテキストと連動する 2 ～ 3 分の WEB

講座（動画）が視聴できる解剖生理学の参考書を購入している。学生は、あらゆる媒体から教材を自由に選択して利用できる状況にあり、講義のみならず、自宅学習などいつでもどこでも学習に役立てられる環境となっている。

表 V－1 蔵書数 (各年度 2 月末集計。以下同じ)

分類 年度	基礎分野 (冊)	専門基礎及び 専門分野(冊)	前記以外の 分野 (冊)	計 (冊)	学術雑誌 (種類)	電子書籍 (タイトル)
令和元年度	1,256	8,957	1,643	11,856	29	－
令和2年度	1,254	8,938	1,684	11,876	29	24
令和3年度	1,211	8,943	1,689	11,843	28	26
令和4年度	1,158	8,838	1,700	11,696	27	34
令和5年度	1,129	8,585	1,705	11,419	27	43

表 V－2 図書受け入れ数 (献本を含む。製本雑誌は除く)

分類 年度	基礎分野 (冊)	専門基礎及び 専門分野(冊)	前記以外の 分野 (冊)	計 (冊)	視聴覚教材 (本)	電子書籍 (タイトル)
令和元年度	13	235	29	277	4	－
令和2年度	9	251	42	302	7	24
令和3年度	20	306	20	346	0	2
令和4年度	14	172	25	211	3	8
令和5年度	6	156	10	172	1	9

表 V－3 図書の貸出冊数

年度	学生			教員 (冊)	学外者 (冊)	合計 (冊)	電子書籍 (利用回数)
	1年 (冊)	2年 (冊)	3年 (冊)				
令和元年度	226	772	593	133	11	1,735	－
令和2年度	218	549	550	124	0	1,441	1,006
令和3年度	153	439	809	165	0	1,566	704
令和4年度	153	458	481	90	2	1,184	1,071
令和5年度	134	284	431	188	1	1,038	1,436

(2) 保健活動について

コロナ前の生活に戻るべく、状況に応じた黙食に留めるなどこれまでの制限を解除した。集団生活を送るにあたり、常にあらゆる感染症蔓延の危険性があるため、感染予防対策の基本的な「手洗い」や「手指消毒剤の使用」は継続した。感染症を疑う自覚症状がある場合は、病院受診を促し、受診行動があった場合は感染症の有無にかかわらず当日は出校停止扱いにする、受診行動がない場合は、教室とは別室で Teams を用いたオンライン受講を調整するなど学生の不利益にならないようルールを決めて対応した。

新型コロナウイルス感染症が 5 類になったとはいえ、実習施設により実習受け入れ条件に差が生じた。そのため、学校として「実習開始 2 週間前からマスクの着用」など感染予防対策を意図的に行うよう学生に伝達し、理解を得た上で協力を仰ぎ、万全の状

態で実習できるよう学生の日常生活を整える働きかけをした。「毎日の体温測定・健康観察」は5類感染症になった時点で本来は不要だが、実習施設の実習受け入れ条件の1つになっている施設もあり継続した。体温等記載用紙を定期的に確認し、必要に応じて実習施設へ提出した。コロナワクチン接種は、学校からは勧奨せず、個人の判断に委ねた。

春の定期健康診断時に麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価検査をしている。抗体値が擬陽性または陰性でワクチン接種勧奨対象者は、1年生16名、2年生6名、3年生2名であった。対象者にはそれぞれのワクチン接種を勧奨しているが、接種率は20%程度となっている。

HBs抗体検査は、1年生44名が陰性であり、令和5年度中にHBワクチン3回接種を勧奨し、全員がワクチン接種を終えている。昨年度ワクチンを接種した2年生は、全員HBs抗体は陽性となった。

秋頃からインフルエンザ予防接種を全学生に勧奨しており、30%程度の接種率である。

令和5年度は、季節を問わず新型コロナウイルス、インフルエンザ、保育園実習中の学生を中心にヘルパンギーナの罹患が多く認められた。しかし、学校内での感染拡大には至らなかった。

(3) 国家試験対策について

3年生は、年間をとおして必修問題模擬試験・全国公開模擬試験(240問)等を11回実施した。昨年度国家試験が不合格だった既卒生も模試の際には登校し、3年生と同じ環境下で受験した。模試の翌日には振り返りの時間を確保し、知識の定着が図れるよう配慮した。これまでの学内の成績、模擬試験結果から成績低迷者9名を選定し、チューター制で教員が学習を支援した。途中で成績低迷者が入れ替わることがあるため、見直しを行いながら学習支援を継続した。学生間では、国家試験対策係を中心にクラス全員で合格を目指す学習計画を立てた。その計画の1つがナーシングチャンネルを活用し、昼休憩に臓器別「解剖生理学」を視聴するという内容であった。隙間時間を有効活用したことで多くの学生が参加し、国試に向け士気が高められた様子だった。11月には成績低迷者に対して3年生担当が個人面談をしたうえで、電話にて保護者へ学習支援を依頼、12月には3年生全員と面談し、学習状況の確認とともに、今後の学習計画の指導および確認をした。冬季休業中から看護師国家試験直前まで、図書室にて過去から最新版の国家試験対策問題集や過去に実施した模擬試験を公開し、新たな問題に触れる機会を設けた。1月からは、知識の整理や復習の場になるよう学習支援学生と希望者を対象に領域または科目の担当教員による補充講義を対面授業で実施した。

1年生から国家試験対策として、形態機能学で履修した範囲の国家試験問題に触れ、その振り返りを夏季休業、冬季休業中の課題として取り組ませた。その上で3月に解剖生理学の模擬試験を実施した。2年生は7月と3月に基礎学力模擬試験を実施し、模擬試験の振り返りを夏季休業、春季休業中の課題とした。また、春季休業中に第113回の国家試験問題を解き、自己採点を課題とし、国家試験に触れ、自己の実力を図る機会とした。1・2学年末には、業者による学年別国家試験対策ガイダンスを実施し、国家試

験のしくみや傾向を学び、どのように今後向き合っていくとよいかなど意識付けができる場を設けた。

(4) その他

ア Will の利用状況について

授業中、臨地実習中または通学中に被った怪我に対して、また他人に怪我をさせた場合、他人の物を壊した場合、臨地実習中に感染事故にあった場合などに対応できる傷害・賠償保険に全員が加入している。利用状況は、傷害事故4件、賠償事故1件、インフルエンザウイルス感染6件であった。今年度は4月に行われた体育祭の際、捻挫など負傷者が多かった。

イ 奨学金等について

修学のための経済的支援として奨学金・修学資金制度がある。春日井市看護修学資金、小牧市看護修学資金、両市以外の看護修学資金、日本学生支援機構貸与奨学金が利用できる。また、令和2年4月から開始された高等教育の修学支援新制度の対象機関となっており、授業料・入学金の減免措置や返還が不要な日本学生支援機構給付型奨学金の受給ができるようになっている。

今年度はワクチン推進室からの寄贈があり、マスクを分配した。

ウ 専門実践教育訓練給付について

教育訓練給付金受給者は、1年生4名、2年生7名、3年生1名の合計12名である。ホームページにも掲載されており、入学前から制度について知ることができる。今後も入学生に対して制度を説明し、対象者には手続きを進めていく。

エ スクールバスについて

2年生の施設で暮らす高齢者を理解する実習は、施設までの利便性が悪く、学校から遠方のため、2日間に分けて利用している。入院生活を理解する実習は、1年生が臨地実習に慣れていないことから、通学の負担を軽減するためJR春日井駅・学校から実習病院までスクールバスを利用できるよう配慮している。

オ ホームページについて

新着情報を月2回ほど更新している。担当の教職員が、イベントや校内実習の様子など写真とメッセージを載せ、講義の様子やキャンパスライフを伝えている。今後は、受験生に本校の魅力が伝わるようなホームページの充実が課題である。

カ 学生相談

学生が抱えている個人、家庭、学校における不安、悩み等を解消し、健全な学生生活を送ることを目的に、スクールカウンセラーを配置している。スクールカウンセラーは、外部に依頼しており、月1回2枠の時間枠を設け、今年度は9件の(教員の相談も含む)利用があった。教員の相談にも応じていただき学習支援、関わり方にも役立っている。Microsoft Teamから希望者はチャット(メンション)で申し込み、相談しやすい環境を整えている。

キ 学生生活についての調査(卒業時)

「尊敬できる教員が多かった」「学費に対して満足している」「就職または進学に対しての支援に満足している」「就職または進学に対しての支援に満足している」は平均点

4.97 点と最高点であった。次いで「臨地実習の教育体制が充実している」「親しみやすい教員が多かった」は 4.93 点と高値で満足している。

「教科外活動が充実している（ボランティア参加、接遇研修、研修旅行、体育祭・学校祭等）」は平均点 3.80 点と最低点であった。昨年と同じく低く、さらに 0.38 点減少している。「地域との交流がされている（ボランティア、学校祭、実習施設として利用等）」は平均点 3.97 点と低値であった。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症防止対策により、3 年生の海外研修旅行は中止となったため、学生間の交流を深め、看護観の育成となるよう JICA の見学を急遽計画し、海外で活躍した看護師の講話を聴く機会を設定した。貴重な話が聴けたが、満足感には繋がらなかった。体育祭・学校祭は活動内容や方法を工夫し、実施することで達成感や満足感に繋がりたい（資料 5 参照）。

VI 入学者の選抜及びその考え方

1 選抜方法の妥当性、公平性、見直し等

入学試験は、推薦・社会人・一般の3種類を設けており、推薦入学試験は小論文と面接、社会人入学試験は小論文、学科試験（教養）と面接、一般入学試験は学科試験（国語、数学、英語）としている。例年一般入学試験受験者数が多いこともあり、集団面接としていたが、今年度は昨年度より受験者数が減少したため、より良い人材獲得を目指し個人面接とした。

個人面接にしたことで、多面的に質問を投げかけたり、応募者の人物像をより深く理解できることが良い点であった。来年度も受験者数に応じて臨機応変な対応を取ってきたい。

また、令和7年度入試から高等学校教育課程の変更に伴い、入試科目が変更されるため、本校の入試科目も変更に向け事務を進めたい。

2 入学希望者確保への取組

(1) 広報活動

本校の魅力を多くの学生等に発信し、入学希望者を広く募るため、春日井市、小牧市、名古屋市等で開催する進学相談会に積極的に参加している。また、令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより多くの相談会に参加でき、7件、122人（昨年度：7件、136人）の学生等に情報発信できた。さらに、近隣高校で随時開催している相談会にも積極的に参加し、延べ11校（昨年度：8校）の看護師を志望する学生に模擬授業等ができた。

令和5年6月には、推薦指定校13校、県内の高等学校7校、県外の高等学校2校を訪問し、進路指導主事等に本校の入学試験対策やオープンキャンパスの案内とともに、本校の魅力について説明した。加えて、県外で本校の入学試験の受験実績のある高等学校に、郵送で学生募集案内を配付し、情報提供を行った。

その他、7月22日（土）、9月2日（土）に、対面でのオープンキャンパスを開催し、120名の参加があった。また、令和5年度から新たに学校見学会を定期で開催し、9月から令和6年1月まで8回開催し、91名（随行者含む）の参加があった。

今後も多くの学生等に対して、さまざまな機会を通じて周知を図りたい。

(2) 入学志願状況

令和6年度入学試験の受験者数は153名（昨年180名：前年度比85.0%）であった。受験者の内訳は、一般入学試験112名（昨年度144名）、推薦入学試験9名（昨年度8名）、社会人入学試験32名（昨年度28名）であった。

受験者数が減少したのは、主に一般入学試験の高等学校新卒予定者が昨年より32名少なかったことが要因である。

(3) 今後の展望

我が国に占める18歳人口は、平成4年度の205万人をピークに減少しており、国立社

会保障・人口問題研究所(平成29年推計)によれば、現在約117万人の18歳人口が、2030年には103万人、2040年には88万人に減少すると試算されている。このようなことから本校としても人口減少に対応していくため、令和5年度以降の入試方法の見直しを図り、市内の学生は元より、近隣の市町からも優秀な学生を獲得できるよう努めたい。加えて多くの受験生に、本校の魅力を見て、聞いて、体験してもらうため、対面によるオープンキャンパスや学校見学会等の拡充を図りたい。

今後も入学希望者を広く募っていくため、広報誌への掲載やデジタルサイネージ(市内3箇所)を活用した広報活動を行うとともに、愛知県名古屋飛行場消火救難総合訓練を始め春日井、小牧の総合防災訓練などに参加し、本校のPR活動に努めたい。

なお、令和6年度の合格者数算出方法について、昨年度7名多い学生を獲得した経緯があることから、本年度は過去6年間の学科平均点と本年度の面接平均点を参考に合格者数を算出し、通知したが定員より2名多い学生を獲得する結果となった。受験生の傾向は捉えづらい状況が続いており、今後においても合格者数の算出方法を考えていく必要がある。

Ⅶ 地域との連携及び交流

1 地域社会への貢献

(1) 他との部門協力内容の一部

地域社会への貢献として、令和3年度から愛知県春日井警察協議会の委員を引き受けている。昨年度に引き続き春日井警察防犯講話を本校で実施した。令和5年度から春日井市まちづくり推進において、春日井市建築審査会の委員を受けている。

本校の教育理念に、「地域社会に貢献できる看護実践者の育成」があり、今年度初めて、学生企画によるボランティア活動として、8月にNPO法人あいちかすがいっこ主催「お仕事体験～地元で働くっていいね!～」に1年生と教員が参加した。今後も、地域とのつながりを大切に、地域へ関心が持てるよう関係づくりを行っていききたい。

(2) 研修会等の講師

教職員の地域社会への貢献として、研修会等への講師派遣を行っている(表Ⅶ-1)。また、日本看護学校協議会の常任理事に令和5年度5月から就任し、教育の質の向上に寄与している。今後も、地域との連携を密にし、相互協力できるような環境を整え、本校の教育力の向上に役立てたい。

表Ⅶ-1

名 称	R 元 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
愛知県臨地実習指導者講習会	1名	*	1名	1名	1名
愛知県専任教員養成講習会	1名	1名	1名	1名	1名
環太平洋大学 看護教育専攻看護教育実習		*	1名		
日本看護学校協議会認定 教務主任養成講習会講師	1名	*			
看護基礎教育制度についての交流会－みんな で考えよう 看護基礎教育－講師	1名		1名	1名	
愛知県看護協会学会会長					1名
春日井市立中学校 職業講話	1名				1名

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

2 地域社会における資源の活用

(1) 他との部門協力内容の一部

本校では、教科内・教科外・カリキュラム外で、他の部門と協力し学生への教育を行っている(表Ⅶ-2、表Ⅶ-3)。新カリキュラム1年生は、地域や暮らしを知るためにフィールドワークとして、シルバー人材センター、児童館、子どもの家、子育て包括支援センター、多世代まなびの交流センターなど活用している。2年生は、春日井消防署職員による一次救命処置、AEDの実際の授業を行った。また、災害看護と国際看護では、地域で働くEPA看護師をゲストスピーカーに迎え、日本と海外の文化・医療の違いについて理解を深めた。

旧カリキュラム3年生は、国内外でのグローバルな看護活動の実際を学び、医療・看

護・保健・福祉の現状と課題を理解するため、なごや地球ひろばを見学した。

表Ⅶ－２

＜教科内＞

行事名・担当部署等	日時（曜日）	場所	参加者
地域・在宅看護Ⅰ ウェルフェア見学	５月２６日（金） １３：１５～１６：３０	吹上ホール（名古屋市中企業振興会館）	２年生 ３８名 引率 １名
異文化コミュニケーション リトルワールド見学	６月１３日（火） １０：１５～１６：００	野外民族博物館	１年生 ４７名 引率 ２名
地域・暮らしを知る 「フィールドワーク」	７月２１日（金） ９：００～１２：１５ または １３：１５～１６：３０	小牧市高齢者生きがい活動施設 第１みどりの里を含む １２施設	１年生 ４７名
看護観演習 なごや地球ひろば見学	７月２１日（金） １０：００～１２：１５	なごや地球ひろば	３年生 ３８名 引率 １名
老年看護学概論 「高齢者疑似体験」 （ボランティア団体）	１０月２７日（金） １０：４５～１２：１５	本校	１年生 ４７名
災害看護と国際看護 （国際看護） 春日井リハビリテーション 病院 看護局	２月２７日（火） ９：００～１０：３０	本校	２年生 ３８名
災害看護と国際看護 （災害看護） 研修旅行 施設見学	３月１２日（火） ～１３日（水）	人と未来防災センター	２年生 ３８名 引率 ２名
特別講義 先進医療	３月７日（木） １３：１５～１６：３０	本校	２年生 ３８名

表Ⅶ－３

＜教科外・カリキュラム外＞

行事名・担当部署等	日時（曜日）	場所	参加者
県営名古屋飛行場消防救護 訓練	１０月５日（木） １８：４０～２０：００	県営名古屋空港	１年生 ４７名 引率 ２名
「働くことについて考える 授業」 （厚生労働省委託授業 運 営事務局）	２月２８日（水） １０：４５～１２：１５	本校	３年生 ３４名
看護師等届出制度について （愛知県ナースセンター）	２月２９日（木） １３：１５～１４：４５	本校	３年生 ３４名
臓器移植を題材とした 「いのちの教育」 （公益財団法人 愛知腎臓 財団）	２月２９日（木） １０：４５～１２：１５	本校	２年生 ３８名
年金セミナー （名古屋北年金事務所）	３月４日（月） １０：４５～１２：１５	本校	２年生 ３８名
看護師国家試験ガイダンス	３月２１日（月） ９：００～１０：１０ １１：００～１２：１０	本校	１年生 ４７名 ２・３年生 ４１名

令和 5 年度学校評価 参考資料

公立春日井小牧看護専門学校
令和 6 年 3 月 31 日
学校評価委員会

(資料 1)

表 令和5年度 分野ごと授業評価アンケート結果の一覧

評価番号 科目名 (単元名含む)	新 カリ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
統計学	○	5.00	4.41	4.73	4.73	4.95	4.82	5.00	5.00	4.82	4.82	4.83
人間形成と教育	○	4.93	4.98	4.93	4.98	4.98	5.00	5.00	5.00	4.83	4.98	4.96
人間関係論	○	4.48	4.20	4.27	4.45	4.56	4.41	4.59	4.70	4.18	4.52	4.44
カウンセリング論	○	4.98	4.65	4.60	4.74	4.77	4.60	4.91	4.91	4.53	4.81	4.75
社会学	○	4.98	4.93	4.91	4.98	4.96	4.93	4.98	5.00	4.65	4.89	4.92
家族論	○	4.59	4.34	4.41	4.59	4.48	4.23	4.64	4.82	4.20	4.41	4.47
新カリ基礎分野 小計		4.83	4.59	4.64	4.75	4.78	4.67	4.85	4.91	4.54	4.74	4.73

○は、その年度、担当者が新しくなった科目

評価番号 科目名 (単元名含む)	新 カリ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
形態機能学Ⅳ 腎・内分泌・生殖器	○	3.80	4.53	4.56	4.56	4.64	4.69	4.87	2.36	4.13	4.71	4.29
栄養と代謝	○	4.63	3.43	4.17	3.68	3.85	4.29	4.59	4.80	3.61	3.90	4.10
人体とくすり	○	4.84	4.38	4.57	4.49	4.64	4.76	4.64	4.93	4.51	4.71	4.65
診断と治療(食事療法)	○	5.00	4.91	4.85	4.87	4.91	5.00	5.00	4.98	4.66	4.93	4.91
医療概論	○	4.73	4.82	4.47	4.84	4.82	4.91	4.82	4.93	4.20	4.71	4.73
看護と法律		4.97	4.71	4.89	4.89	4.89	4.91	5.00	4.91	4.63	4.89	4.87
疾病治療論Ⅰ (呼吸器内科)	○	4.97	4.97	4.97	5.00	4.97	4.97	5.00	5.00	4.81	5.00	4.97
疾病治療論Ⅰ (循環器内科)	○	5.00	5.00	4.94	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.91	5.00	4.99
疾病治療論Ⅰ (循環器外科)	○	5.00	4.91	4.94	4.91	5.00	4.94	4.91	5.00	4.86	5.00	4.95
疾病治療論Ⅱ (消化器内科)	○	5.00	4.77	4.77	4.91	4.94	4.74	4.83	4.97	4.74	4.85	4.85
疾病治療論Ⅱ (内分泌・代謝内科)	○	5.00	4.97	5.00	5.00	4.97	5.00	5.00	5.00	4.97	5.00	4.99
疾病治療論Ⅲ (脳神経内科)	○	4.97	4.88	4.91	4.94	4.97	5.00	5.00	5.00	4.88	5.00	4.96
疾病治療論Ⅲ (運動器)	○	5.00	4.55	4.58	4.79	4.36	4.45	4.70	4.97	4.82	4.97	4.72
疾病治療論Ⅲ (歯・口腔外科)	○	4.93	4.87	4.87	4.83	4.90	4.87	4.87	4.90	4.80	4.80	4.86
疾病治療論Ⅳ (泌尿器)	○	4.94	4.85	4.82	4.94	4.91	4.91	4.91	4.91	4.88	4.94	4.90
疾病治療論Ⅳ (免疫・アレルギー)	○	5.00	4.97	5.00	5.00	5.00	4.97	4.97	5.00	5.00	5.00	4.99
疾病治療論Ⅳ (血液・造血器)	○	5.00	4.94	4.97	4.97	4.91	4.94	4.94	4.97	4.97	5.00	4.96
小児疾病治療論	○	4.94	4.79	4.91	4.88	4.88	4.91	4.85	4.97	4.82	4.94	4.89
専門基礎分野小計		4.87	4.74	4.79	4.81	4.81	4.85	4.88	4.81	4.68	4.85	4.81
新カリ専門基礎分野 小計		4.87	4.74	4.78	4.80	4.80	4.84	4.88	4.81	4.68	4.85	4.80

評価番号 科目名 (単元名含む)	新 カリ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
看護学概論	○	4.95	4.93	4.91	4.95	4.93	4.93	4.95	4.95	4.58	4.88	4.90
基礎看護技術Ⅰ 安楽・活動・休息	○	5.00	4.79	4.81	4.78	4.76	4.95	5.00	4.90	4.48	4.90	4.84
基礎看護技術Ⅰ 環境	○	4.98	4.95	4.95	4.90	4.98	4.98	5.00	5.00	4.86	4.98	4.96
基礎看護技術Ⅳ バイタルサイン	○	5.00	4.98	5.00	5.00	4.98	5.00	5.00	5.00	4.89	4.98	4.98
基礎看護技術Ⅵ 呼吸・循環を整える	○	5.00	4.97	5.00	5.00	5.00	4.97	5.00	5.00	4.90	5.00	4.98
基礎看護技術Ⅵ 救命・救急	○	4.97	4.87	4.97	4.90	4.87	4.90	4.97	4.97	4.97	4.97	4.94
基礎看護技術Ⅶ 与薬	○	5.00	5.00	4.97	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
基礎看護技術Ⅶ 診療時	○	4.97	4.88	4.94	4.97	4.94	4.76	4.88	4.97	4.85	4.97	4.91
地域・在宅看護Ⅰ	○	4.95	4.92	4.95	4.95	4.95	4.95	4.95	4.96	4.95	4.92	4.94
成人看護学概論・保健	○	4.96	4.96	4.93	4.96	4.93	4.96	4.96	4.96	4.82	4.93	4.94
成人臨床看護Ⅰ 呼吸器/消化器	○	4.95	4.95	4.95	4.95	4.95	4.95	4.95	4.95	4.95	4.95	4.95
成人臨床看護Ⅱ 内分泌・代謝	○	4.94	4.74	4.76	4.79	4.82	4.65	4.79	4.94	4.82	4.85	4.81
成人臨床看護Ⅱ 感覚器	○	4.97	4.94	4.97	4.94	4.94	4.88	4.94	4.97	4.88	4.94	4.94
成人臨床看護Ⅲ 周手術期	○	5.00	4.91	5.00	4.97	5.00	5.00	5.00	5.00	4.97	5.00	4.99
成人臨床看護Ⅲ 女性生殖系	○	5.00	5.00	4.96	4.96	5.00	4.88	4.96	5.00	4.92	5.00	4.97
成人臨床看護Ⅳ 血液・造血器	○	5.00	5.00	4.97	4.97	5.00	5.00	4.97	4.97	4.84	5.00	4.97
成人臨床看護Ⅳ 腎・泌尿器	○	4.88	4.82	4.78	4.91	4.88	4.63	4.81	4.97	4.81	4.91	4.84
成人臨床看護Ⅳ 緩和ケア	○	4.97	4.94	4.97	4.97	5.00	4.94	4.97	4.97	4.81	4.90	4.94
成人臨床看護Ⅳ 化学療法	○	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.94	5.00	4.99
成人臨床看護Ⅳ ペインコントロール	○	5.00	4.97	4.97	5.00	4.97	4.97	4.97	4.97	4.88	4.97	4.97
老年看護学概論	○	4.45	4.62	4.62	4.79	4.57	4.71	4.98	4.93	4.48	4.79	4.69
老年保健	○	4.82	4.40	4.58	4.64	4.38	4.62	4.96	4.84	4.67	4.80	4.67
老年臨床看護B	○	4.97	4.67	4.87	4.77	4.70	4.87	4.90	4.90	4.86	4.83	4.83
小児臨床看護	○	4.97	5.00	5.00	5.00	4.94	4.97	4.97	5.00	4.82	5.00	4.97
母性看護学概論・保健	○	5.00	5.00	4.97	4.97	5.00	5.00	5.00	5.00	4.97	5.00	4.99
母性臨床看護Ⅰ	○	4.97	4.92	4.97	5.00	4.92	5.00	5.00	5.00	4.92	5.00	4.97
母性臨床看護Ⅱ	○	4.94	4.82	4.68	4.91	4.91	4.91	4.88	5.00	4.79	4.88	4.87
精神臨床看護A		4.97	4.94	4.97	4.97	4.97	5.00	5.00	5.00	4.78	5.00	4.96
精神臨床看護B		4.97	4.88	4.94	4.91	4.91	4.94	4.94	4.97	4.68	4.88	4.90
災害看護と国際看護 災害看護	○	5.00	4.85	4.91	4.91	4.91	4.94	4.94	4.94	4.79	4.91	4.91
災害看護と国際看護 国際看護	○	4.91	4.83	4.89	4.91	4.89	4.80	4.86	4.89	4.86	4.91	4.87
看護管理		5.00	4.89	4.71	4.89	4.89	4.94	4.89	4.97	4.51	4.91	4.86
専門分野 小計		4.95	4.89	4.90	4.92	4.90	4.91	4.95	4.97	4.82	4.94	4.91
新カリ専門分野 小計		4.95	4.88	4.91	4.92	4.90	4.90	4.95	4.96	4.84	4.94	4.92

は、その年度、担当者が新しくなった科目

凡例	授業評価項目
1	予定に沿って計画的に授業が行われていましたか。
2	授業の内容はわかりやすかったですか。
3	学生が質問や意見を言いやすいように配慮していましたか。
4	専門用語やなじみのない用語に対して、わかりやすい説明がありましたか。
5	黒板、スライド、資料などの視聴覚教材は、授業の理解を助けましたか。
6	担当者の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。
7	担当者の、授業に対する熱意を感じましたか。
8	授業時間をむやみに延長したり短縮することはありませんでしたか。
9	あなたは、授業に意欲的に取り組みましたか(予習・復習、技術練習)。
10	あなたは、この授業で新しい知識や技術が身につきましたか。

基準

- 5 「はい」
- 4 どちらかというと「はい」
- 3 どちらともいえない
- 2 どちらかというと「いいえ」
- 1 「いいえ」

令和5年度「学生による実習の授業評価」結果一覧

		入院生活	基礎	急性期	施設	老年	成人Ⅲ	小児	母性	精神	在宅	総合	平均
学 生 の 実 習 へ の 取 り 組 み	1 実習要項をよく読み、実習に臨みましたか。	4.78	4.75	4.90	4.97	4.98	4.87	4.92	4.88	4.87	4.88	4.97	4.89
	2 この実習に興味を持ち、今までの学習内容を活用しながら実習を展開しましたか。	4.78	4.91	4.95	4.97	4.98	4.96	4.92	4.67	4.95	4.91	4.84	4.89
	3 実習中に関わる人すべてと良好な人間関係を築こうと努力しましたか。	4.96	4.96	4.90	4.95	4.96	5.00	4.96	4.89	4.93	4.97	4.97	4.95
	4 積極的に自分の思いや考えを述べることができましたか。	4.76	4.83	4.85	4.97	4.98	4.76	4.84	4.59	4.81	4.64	4.92	4.81
	5 グループメンバーで協力し合い、学習を深めることができましたか。	4.93	4.98	4.93	4.95	4.93	5.00	4.94	4.89	4.95	4.91	4.97	4.94
教 員 ・ 臨 地 指 導 者 の 指 導 方 法	6 援助場面で、適切なアドバイス、指導、説明などを受けることができましたか。	4.98	5.00	4.93	4.80	4.80	4.97	5.00	4.21	4.83	4.94	4.92	4.85
	7 実習記録に対して適切な助言を受けることができましたか。	4.96	4.92	4.68	4.80	4.82	5.00	4.96	4.30	4.90	4.91	4.89	4.83
	8 患者やスタッフとの人間関係の調整をしてもらいましたか。	4.78	4.88	4.80	4.97	4.90	4.90	4.98	4.04	4.96	5.00	4.95	4.83
	9 質問しやすい雰囲気がありましたか。	4.96	4.96	4.83	4.91	4.88	4.92	4.98	3.54	4.89	5.00	4.77	4.79
	10 尊重した態度で接してもらいましたか。	5.00	5.00	4.85	4.86	4.80	4.97	4.96	3.70	4.98	4.81	4.84	4.80
学 習 環 境	11 教員や指導者の患者に対する態度から学ぶ機会がありましたか。	5.00	5.00	4.88	4.86	4.80	5.00	4.98	4.49	4.95	5.00	4.87	4.89
	12 教員と指導者間で指導の方向性がずれないよう連携がとれていましたか。	4.96	5.00	4.83	4.94	4.53	4.89	4.98	3.75	4.85	4.88	4.70	4.75
	13 カンファレンスについて適切な指導、助言を受けることができましたか。	4.98	5.00	4.90	4.91	4.83	4.96	5.00	4.55	4.91	5.00	4.94	4.91
	14 病棟・施設全体で学生を指導する雰囲気がありましたか。	4.94	5.00	4.90	4.85	4.77	4.85	4.98	3.72	4.93	5.00	5.00	4.81
	15 ケアに必要な物品が不足することなく実習を行うことができましたか。	4.92	4.79	4.83	4.78	4.83	4.94	4.98	4.82	4.73	5.00	5.00	4.87
学 習 環 境	16 記録場所などが確保され不自由なく実習を行うことができましたか。	5.00	4.98	4.80	4.80	4.83	5.00	5.00	4.33	4.89	4.94	5.00	4.87
	17 必要な文献や資料は整っていましたか。	4.96	4.98	4.84	4.81	4.33	4.93	4.88	4.73	4.63	4.86	4.97	4.81
	評価の平均	4.92	4.94	4.86	4.89	4.82	4.94	4.96	4.36	4.88	4.92	4.91	4.85
回収数／実習生数		46/47	47/47	38/38	38/38	38/38	35/35	37/37	35/35	37/37	37/37	34/34	
回収率		97	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

(資料2)

(資料3)

卒業時の到達目標到達度調査

本校で3年間学習した結果、卒業時の到達目標に到達しているかどうか自己評価していただきたいと思います。
この自己評価を基に、本校の教育評価の参考にし、学校運営に役立てていきたいと考えております。
自己評価結果は個人が特定できないようデータ化します。
今後の本校の教育に活かしていきたいと思いますので、どうぞ協力ください。

5:十分できる、4:まあまあできる、3:不足はしているがなんとかできる、2:できないところが多い、1:全然できない

教育目標	卒業時の到達目標	到達度 自己評価					回答 30名	
		5	4	3	2	1	平均	平均
1. 生命や人権を尊び、倫理観に基づいて判断し、行動ができる資質を養う。	1) 生命の尊厳や人権尊重の意味を理解し、擁護することができる。	26	3	1	0	0	4.83	4.85
	2) 対象の知る権利や自己決定の権利を尊重できる。	27	2	1	0	0	4.87	
	3) 対象の個人の情報やプライバシーを守ることができる。	29	0	1	0	0	4.93	
	4) 看護師を目指す者としての自覚を持ち、責任ある行動をとることができる。	25	3	2	0	0	4.77	
2. 人間を統合された存在として幅広く理解する能力を養う。	5) 対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。	27	2	1	0	0	4.87	4.86
	6) 個別的な価値観・信条や生活背景をもつ人の理解ができる。	26	3	1	0	0	4.83	
	7) 他者を思いやり他者との人間関係を深めることができる。	27	2	1	0	0	4.87	
3. 人々の健康状態に応じた看護を科学的思考に基づいて安全に実践できる能力を養う。	8) 対象の健康問題をアセスメントできる。	20	8	2	0	0	4.60	4.70
	9) 看護の必要性が理解でき、看護計画が立案、実施、評価できる。	19	8	2	0	0	4.59	
	10) 看護実践に伴う危険を認識し、原理原則に基づいて、看護を安全に実施できる。	26	2	2	0	0	4.80	
	11) 対象の健康に責任を持ち、継続看護を意識して行動できる。	26	2	2	0	0	4.80	
4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を果たす能力を養う。	12) ヘルスケア提供の仕組みが理解できる。	24	4	2	0	0	4.73	4.80
	13) 保健・医療・福祉チームにおける、他職種との連携や協働の必要性が理解できる。	27	1	2	0	0	4.83	
	14) チームの一員として、看護の役割を認識し、協調的態度を身につけることができる。	26	3	1	0	0	4.83	
5. 向上心を持ち、主体的に学習する態度を養う。	15) 常に自分の態度を振り返り、自己の課題を認識できる。	25	4	1	0	0	4.80	4.79
	16) 課題の解決に向けて、知識や体験を主体的に求めることができる。	25	4	1	0	0	4.80	
	17) 看護の専門職業人としての自覚を持ち、継続的に学習ができる。	24	5	1	0	0	4.77	
6. 視野を広げ、社会の変化に対応できる能力を養う。	18) 社会の動向に関心を持つ。	21	7	2	0	0	4.63	4.70
	19) 変化する健康ニーズと看護の役割が認識できる。	24	5	1	0	0	4.77	
平均							4.79	

(資料4)

表 令和5年度 33回生基礎看護技術修得率表

技術 番号	技術 区分	到達度				技術項目	修得率 (%)	
		国	1 年 次	2 年 次	3 年 次		33回生	32回生
1	環境	Ⅱ	○			臥床患者のシーツ交換	97	84
2		Ⅰ	○			病室の環境整備	100	100
3	食	Ⅰ	認			嚥下障害のない患者の食事介助	16	5
4		Ⅱ	デ			経管栄養法（経鼻・胃瘻からの注入）	49	53
6	排泄	Ⅰ	○			床上排泄（便器）の援助	0	16
7		Ⅰ	○			床上排泄（尿器）の援助	0	29
8		Ⅱ	認			ポータブルトイレによる排泄の援助	19	13
9		Ⅱ			○	新生児のおむつ交換　＊	97	100
10		Ⅱ		○		大人のおむつ交換	89	100
13		Ⅱ	認			膀胱内留置カテーテルの管理	92	92
17	活動・ 休息	Ⅱ	○			臥床患者の体位変換	86	84
18		Ⅰ	認			患者の歩行・移動介助	73	92
19		Ⅱ	○			ベット⇄車椅子移乗	78	79
20		Ⅰ	○			車椅子移送	92	92
21		Ⅱ	○			ストレッチャーへの移乗・移送	59	55
23		Ⅱ	○			臥床患者の全身清拭	95	100
24	清潔・衣	Ⅱ	○			口腔ケア	38	0
25		Ⅰ	○			手浴・足浴	100	100
26		Ⅱ		○		陰部洗浄	100	100
27		Ⅱ	○			洗髪（臥位での）	81	92
28		Ⅱ	認			入浴介助	89	68
29		Ⅱ			○	新生児の沐浴　＊	95	100
30		Ⅱ		○		輸液ライン等のある患者の寝衣交換	92	95
31		呼吸・ 循環	Ⅱ	○			酸素吸入（カスラ・マスク）	76
33	Ⅱ		○			ネブライザー吸入	78	63
38	Ⅰ		○			冷罨法	62	55
39	Ⅰ		○			温罨法	14	18
41	創傷管理	Ⅱ	○			褥瘡予防（除圧・減圧）	68	82
43	与薬	Ⅱ	認			与薬（経口）	78	87
44		Ⅱ	認			与薬（経皮・外用薬）	73	89
55	生体機能 管理	Ⅰ	○			体温測定	100	100
56		Ⅰ	○			脈拍測定（心音を含む）	100	100
57		Ⅰ	○			呼吸測定（呼吸音を含む）	100	100
58		Ⅰ	○			血圧測定	100	100
59		Ⅱ	認	○		意識レベル（対光反射を含む）の観察	68	74
60		Ⅱ		○		腸蠕動音の聴取	95	100
61		Ⅱ		○		心電図モニターの装着	73	92
62		Ⅱ		○		パルスオキシメーターの使用	97	100
63		Ⅰ			○	身体計測（身長・体重・腹囲等）	97	97
64		Ⅱ			○	採尿	11	11
66	感染予 防	Ⅱ	○			血糖検査	95	92
67		Ⅰ	○			衛生的手洗い	100	100
68		Ⅱ	○			無菌操作（創傷処置等）	22	45
69		Ⅱ	○			防護用具の装着（手袋）	100	92
70			デ	○		マスク・ガウン・ゴーグル等	100	95
71	Ⅱ	認			感染性廃棄物の取り扱い	95	95	
73	安全管理	Ⅱ	認			転倒・転落予防	86	92
74		Ⅱ		認		ドレーン・チューブ類の安全管理	86	92
75	安楽	Ⅱ	○			安楽な体位の保持	62	84

 は、80%以上修得

(資料5)

学生生活についての調査（卒業時）

学校生活に対し、皆さまからいただいた意見を集約して本校の教育評価の参考にし、学校運営に役立てていきたいと考えています。

調査内容は個人が特定できないよう処理をしていきますので、是非アンケートにご協力ください。

なお、この調査結果につきましては外部に公表をしていくことを考えております。

この用紙の提出をもって外部に公表することに対し承諾を得たと解釈させていただきたいと思います。

ご協力よろしくお願いいたします。

次の質問について、右欄の評価点の該当する箇所に○をつけてください。

評価は、5＝そう思う、4＝どちらかと言うとまあそう思う、3＝どちらともいえない、2＝あまりそう思わない、

1＝そう思わない、の5段階で評価してください。

質 問 項 目		評価					平均	回答者数
		5	4	3	2	1		
Ⅰ. 教育体制・カリキュラム・授業に対して								
1	授業進度は適切であった	24	5	1	0	0	4.77	30
2	学内実習の教育体制が充実している	27	2	1	0	0	4.87	30
3	演習の教育体制が充実している	26	3	0	0	1	4.77	30
4	臨地実習の教育体制が充実している	28	2	0	0	0	4.93	30
5	演習・学内実習・臨地実習における人数配分（グループ人数）が適切であった	22	8	0	0	0	4.73	30
6	理解しやすい授業が多かった	12	13	4	1	0	4.20	30
7	興味が持てる授業が多かった	14	9	5	1	1	4.13	30
8	親しみやすい教員が多かった	28	2	0	0	0	4.93	30
9	尊敬できる教員が多かった	29	1	0	0	0	4.97	30
10	成績評価は適正に行われていた	19	9	1	0	1	4.50	30
11	教科外活動が充実している（ボランティア参加、接遇研修、研修旅行、体育祭・学校祭等）	11	7	8	3	1	3.80	30
12	地域との交流がされている（ボランティア、学校祭、実習施設として利用等）	11	10	7	1	1	3.97	30
Ⅱ. 学校生活の支援に対して								
13	教員による支援に満足している	26	4	0	0	0	4.87	30
14	事務職員の対応に満足している	25	3	2	0	0	4.77	30
15	国家試験対策が充実している	22	7	1	0	0	4.70	30
16	学費に対して満足している	29	1	0	0	0	4.97	30
17	就職または進学に対しての支援に満足している	29	1	0	0	0	4.97	30
18	◆生活支援（修学資金、育英会等）に満足している	18	3	0	0	1	4.68	22
19	◆学生相談（カウンセラー）による支援に満足している	15	4	0	0	1	4.60	20
Ⅲ. 施設・設備に対して								
20	校内の清掃・整備がされている	22	6	1	0	1	4.60	30
21	教室の設備が充実している	18	9	2	0	1	4.43	30
22	実習室の設備が充実している	13	13	2	1	1	4.20	30
23	視聴覚教室の設備が充実している（視聴覚教材、パソコン、環境等）	15	11	3	0	1	4.30	30
24	図書館の設備が充実している（蔵書数、DVD数、文献検索システム、コピー機、環境等）	24	6	0	0	0	4.80	30
25	談話室（学生ホール、給茶室、自動販売機等）、更衣室等の環境が整っている	13	14	2	1	0	4.30	30
26	自己学習、グループワークなどの設備が充実している（自己学習室、演習室1・2、印刷室）	16	11	3	0	0	4.43	30
27	◆駐車場・駐輪場などが充実している	12	7	5	0	0	4.29	24
Ⅳ. 全体評価								
28	看護専門学校時代に知識面において成長した	26	4	0	0	0	4.87	30
29	看護専門学校時代に人間性において成長した	27	2	0	1	0	4.83	30
30	本校への進学を後輩にすすめたいと思う	25	5	0	0	0	4.83	30

◆印は利用した人のみ回答してください。